

(3) 作業療法学科

専門科目（作業療法学科）

科目名	頁	科目名	頁
作業療法学概論	237	内部障がい作業療法学	263
作業療法国際比較論	239	認知機能作業療法学	264
基礎作業学	240	高齢期作業療法学	266
基礎作業学実習	242	高齢期作業療法学演習	267
運動学Ⅰ	243	高齢期作業療法学実習	268
運動学Ⅱ	244	日常生活活動学	269
体表解剖学	245	地域作業療法学概論	270
作業療法管理学	246	地域作業療法学Ⅰ	271
作業療法評価学概論	247	地域作業療法学Ⅱ	272
作業療法評価学演習Ⅰ	248	福祉用具・住環境整備学	273
作業療法評価学演習Ⅱ	249	職業関連活動学	274
作業療法評価学演習Ⅲ	250	作業療法研究法	275
作業療法評価学実習	252	卒業研究	276
小児期作業療法学	253	見学実習特論	277
小児期作業療法学演習	254	総合実習Ⅰ特論	279
小児期作業療法学実習	256	総合実習Ⅱ特論	280
身体機能作業療法学	257	総合実習Ⅲ特論	281
身体機能作業療法学演習	258	見学実習	282
身体機能作業療法学実習	259	総合実習Ⅰ	283
精神機能作業療法学	260	総合実習Ⅱ	285
精神機能作業療法学演習	261	総合実習Ⅲ	287
精神機能作業療法学実習	262		

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法学概論		作業療学科 (専門科目)	教 授・藤井 浩美 教 授・佐藤 寿晃	必修	1	前期	2	非該当	否
授業概要		作業療法 (Occupational Therapy: OT) とは何かについて教授する。つまり、生活上行なわれる活動を通じて、対象者の健康で安寧な生活を促進する医療と生活を結ぶ専門職であることを概説する。OT の対象は、生活に支障を来した乳幼児期から高齢期までの心身に障がいを抱える人や予測される人であり、その人を支える家族や地域社会であることを教授する。そして、OT で用いる作業（活動）は、生活の活動全般であり、仕事、趣味、地域への参加など含む。したがって、OT が提供される保健、医療、福祉、教育、就労などの領域について概説する。 そして、早期臨床体験を通じて、作業療法の臨床場面を見学し、作業療法に関する学習意欲の向上を図る。							
一般目標		学生は OT に必要な基礎知識を目的、対象、手段、領域の側面から理解する。							
到達目標		学生は、OT に必要な基礎知識を目的、対象、手段、領域の側面から説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		毎回、講義内容をまとめたレポート（600 字程度）で評価します。各回の講義終了時にレポートの課題を提示します。レポートは、講義内容の理解度で判断します。基準は、理解度に応じて A、B、C、D までを合格とし、F（59 点以下）を不合格とします。 レポート提出は講義開始までに提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0 点となります。到達目標に達したか否かの判定は、すべてのレポートの合計が 60%以上とします。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法			授業外学習	担当
1	5. 4. 14（金）1	作業療法は何か			人間の健康、病気、障害について説明できる				藤井
2	5. 4. 21（金）1	作業療法―その起源と伝承される原理			伝承される原理と作業療法の目的について説明できる			レポート提出	藤井
3	5. 4. 28（金）1	作業療法の仕組み 1			情報収集段階の仕組みが説明できる			レポート提出	藤井
4	5. 5. 12（金）1	作業療法の仕組み 2			初回評価、治療・支援計画の仕組みが説明できる			レポート提出	藤井
5	5. 5. 19（金）1	作業療法の仕組み 3			治療・支援の実践が理解できる			レポート提出	藤井
6	5. 6. 2（金）1	作業療法の実際 1			作業療法士の実践が理解できる			レポート提出	スポット
7	5. 6. 16（金）1	作業療法の実際 2			作業療法士の実践が理解できる			レポート提出	スポット
8	5. 6. 23（金）1	OT 部門の管理と運営			OT 部門を通して Vison , Leadership, Management, Negotiation が理解できる			レポート提出	佐藤
9	5. 6. 30（金）1	診療報酬と医療経済			作業療法に関わる診療報酬の概要について説明できる			レポート提出	佐藤
10	5. 7. 7（金）1	作業療法の国際性			世界と日本の作業療法が説明できる			レポート提出	藤井
11 ～ 15	別途掲示	作業療法士の資格を有する教員が作業療法士の働く施設へ学生とともに赴く。そして、学生に作業療法の実際を見学させるとともに、作業療法の必要性を教授する。			早期臨床体験を通じて、作業療法の臨床場面を見学し、作業療法に関する学習意欲を向上させる				佐藤 森 千葉 鈴木 外川 佐々木 井上 川勝 高畑
レポート提出		次回 9 時までに藤井浩美のメールアドレスへ送信する。							
早期臨床体験のレポート		別途、各教員から示された期限までに、示された場所に提出する。							
教科書 参考図書		教科書：矢谷令子，福田恵美子編：作業療法実践の仕組み改訂第 2 版．協同医書出版社．東京，2014. 教科書：藤井浩美，小山内隆生，黒渕奈寿編：日常生活活動の作業療法．中央法規出版株式会社，2014. 参考図書：矢谷令子編：作業療法学概論第 2 版．医学書院．東京，2011. ：杉原素子編：作業療法概論第 3 版．協同医書出版社．東京．2010.							
履 修 上 の 注 意		予習をしてから授業に臨んでください。 修得状況をその日の Minute paper を用いて確認します。							

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	専門科目です．欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりして、個人の意見を持って授業に参加してください。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	藤 井：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp 佐 藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 森 ：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp 千 葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp 鈴 木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp 外 川：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp 佐々木：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp 井 上：理作共同研究室 kainoue@yachts.ac.jp 川 勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp 高 畑：理作共同研究室 mtakahata@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法国際比較論		作業療法学科 (専門科目)	CUS 教員 作業療法学科全教員	必修	4	後期	1	非該当	可
授業概要		本学作業療法学科は、開学以来、米国コロラド州立大学(Colorado State University, 以下 CSU)応用人間学部作業療法学科より、異なる専門領域の教員を招聘して、本講義を実施してきた。 講義の目的は近年の米国における作業療法の状況や医療・福祉などのトピックを講義し、国際感覚を養うと共に、両国における将来の作業療法の在り方を考察するものである。							
一般目標		・米国と日本の作業療法の相違点について理解する。 ・両国の作業療法の相違が、国や州の法律が大きく異なるために影響を受けていることを理解する。 ・両国の相違が民族・文化によって異なっていることを理解する。 ・授業において、積極的に英語を理解し、発言する努力を行うことの重要性を理解する。							
到達目標		・講義内容を理解し、米国での作業療法についての知見を持つ ・講義テーマについて、日米比較を行うことができる(和文レポート) ・講義に英語で質問し、質疑応答を経験する							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		レポート課題「講義内容について、米国と日本での状況について比較し、考察する(字数 2000 字程度)」により判断する。提出期限は 12 月末日とする。 成績判定は、F 判定: 59 以下臨床家を志す学生として不十分であると思われる D 判定: 60-69 講義内容をおおまかには理解している C 判定: 70-79 臨床実習に必要な知識の習得や応用ができると総合的に判断される B 判定: 80-89 大学生として発展的な意見が述べられている A 判定: 100-90 秀でた独創的知見が述べられている							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1 2 3 4 5 6 7 8	後日連絡	オリエンテーション・総説 米国の臨床実習について これまでの研究成果からの知見 学生の卒業研究へのアドバイス		主に講義形式で実施される。 CSU 教員が講義を行う。 本学教員が通訳を行うこともある。 臨床実習での体験や卒業研究での関連領域を英語で発表することも行われる。		テーマに関する教科書などを図書館で読むことが望ましい。 また、米国作業療法学会誌 AJOT などを参照し、時流をつかみ、授業で質問すると良い。		CSU 教員、 作業療法 学科教員	
教科書 参 考 図 書		教科書は特に指定しない。 米国作業療法学会誌 American Journal of Occupational Therapy, AJOT(図書館から Web 閲覧可)から関係するトピックを読むと良い。							
履 修 上 の 注 意		講義資料(英文)を事前に配布することがあるので、各自で内容を確認することが望まれる 講義中に質問のある場合は、積極的に質問してほしい。できるだけ英語での質問が期待される。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		授業にて熱心な討議に参加し、自己研鑽することが期待される。 講義後、CSU 教員へのメールにての質問も推奨される。 本講義は、毎年、内容が異なるため、他学年の聴講は推奨される。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		科目担当者 佐々木学: 研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎作業学		作業療法学科 (専門科目)	教 授・藤井 浩美 准 教 授・鈴木 由美 非常勤講師・小山内 隆生	必修	1	前期	1	非該当	否
授業概要		作業療法(Occupational Therapy: OT)における作業の価値と適応について、理解する							
一般目標		作業の適応と作業の分類について理解する。作業分析の構造を理解する。							
到達目標		作業の適応と作業の分類、作業分析の構造を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		骨格筋レポート、作品の作業分析のレポートで評価します。レポートは、理解度で判断します。骨格筋レポート提出は、下記の通りです。13 時まで提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0 点となります。 到達目標に達したか否かの判定は、骨格筋レポート合計と作品の作業分析レポートが 60%以上とします。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習 など		担当	
1	5. 4. 14 (金) 4	OT と作業		作業が OT に用いられる理由を説明できる。		課題レポート作成		藤井	
2	5. 4. 21 (金) 4	作業活動		人―作業―環境の関係が説明できる。				鈴木	
3	5. 4. 28 (金) 4	作業分析 1		いくつかの作業分析の方法が説明できる。				鈴木	
4	5. 5. 12 (金) 4	作業分析 2		作業活動に必要な身体機能・精神機能を説明できる				鈴木	
5	5. 5. 13 (土) 3	作業分析 3		作業と道具使用との関連を説明できる。				小山内 藤井	
6	5. 5. 13 (土) 4	心理社会的技能と作業分析		精神科作業療法領域における作業分析について説明できる。				小山内 藤井	
7	5. 5. 13 (土) 5	紙細工の実際		紙細工の方法を説明できる。				小山内 藤井	
8	5. 5. 19 (金) 4	紙細工の作業・動作分析		代表的な紙細工の作業・動作分析ができる。				鈴木	
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：新・徒手筋力検査法（第 10 版） 参考図書：鈴木明子，福田恵美子訳：フィドラーのアクティビティ論。医学書院，2007。 小林夏子，福田恵美子：基礎作業学。医学書院，2007。							
履 修 上 の 注 意		1 回目の講義には、必ず、新・徒手筋力検査法（第 10 版）を持参下さい。 5 月 13 日(土)は 12 時 50 分までに、作業療法評価実習室（1 階南の体育館側）に集合してください。紙細工を行いますので、物差し、カッターを持参下さい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望します。 課題は、提出〆切を厳守してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		藤 井：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp 鈴 木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp 小山内：弘前大学 小山内研究室 osanai@hirosaki-u.ac.jp							

●課題 1：骨格筋レポートの提出

作業・動作分析の基本である骨格筋の名称と形態を覚えるための課題です。そのために、津山直一：新・徒手筋力検査法（第 10 版）の図を参考にして描き，筋名，起始，付着，神経支配をレポートしてください。レポートの作成方法は、初回時の講義で説明します。

課題 番号	提出日	各週の課題（運動名と描画する図版のページ）
1	4. 21（金）13 時	肩甲骨外転と上方回旋 pp97-101, 肩甲骨挙上 pp102-104, 肩甲骨内転 pp105-107, 肩甲骨下制と内転 pp108-110
2	4. 28（金）13 時	肩甲骨内転と下方回旋 pp111-115, 広背筋 116-119, 肩関節屈曲 pp122-125, 肩関節伸展 pp126-129
3	5. 12（金）13 時	肩関節外転 pp130-133, 肩関節水平外転 pp135-137, 肩甲骨水平内転 pp138-142, 肩関節外旋 pp143-147, 肩関節内旋 pp148-153, 肘関節屈曲 pp154-158
4	5. 19（金）13 時	肘関節伸展 pp159-163, 前腕回外 pp164-167, 前腕回内 pp169-172, 手関節屈曲 pp173-177, 手関節伸展 pp178-182
5	5. 26（金）13 時	指の PIP 関節および DIP 関節屈曲 pp184-189, MP 関節伸展 pp190-193, MP 関節屈曲 pp194-198, 指外転 pp199-200, 指内転 pp201-202,
6	6. 2（金）13 時	母指 MP と IP 屈曲 pp205-207, 母指 IP 関節屈曲 p208, 母指 MP と IP 伸展 pp209-212, 母指外転 pp213-215, 母指内転 pp216-218, 対立運動 pp219-221

●課題 2：作品の作業分析レポートの提出

5 月 13 日（土）の集中講義で実施した紙細工の作業分析し、6 月 9 日（金）13 時まで電子メールで小山内先生と藤井までへ提出す。

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎作業学実習	作業療法学科 (専門科目)	教 授・藤井 浩美 准教授・鈴木 由美 講 師・佐々木 学 非常勤講師 加藤 拓彦	必修	1	後期	1	非該当	否
授 業 概 要	作業療法(Occupational Therapy: OT)で用いられる様々な介入技法を通じて、一つ一つの技法の適用と多様な領域で活用について、理解する。							
一 般 目 標	作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、作業分析をもとに理解する。							
到 達 目 標	作業の適応と作業の分類、作業の治療的意味について、作業分析をもとに説明できる。							
成績評価方針	作業分析のレポートで評価します。レポートは、理解度で判断します。レポート提出は、次回講義開始時に提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0点となります。							
評 価 方 法 および基準	到達目標に達したか否かの判定は、レポートの合計が60%以上とします。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1 2	5. 9. 30 (土) 2-3	陶芸の治療的応用	陶芸の治療作用と副作用が説明できる。				藤井 加藤	
3 4	5. 9. 30 (土) 4-5	造形と素焼の実際、作業分析	造形と素焼の方法を説明できる				藤井 加藤	
5 6	5. 10. 5 (木) 1-2	認知・作業のトレーニング	物と自分、他者と自分の関係を理解し、説明できる			実技に関しては、創造性が必要ですので、日ごろから物づくりを行ってください。 作業分析に必要な筋の起始、停止、神経支配、作用をしつかりと学んでください。	藤井	
7 8	5. 10. 12 (木) 1-2	革細工の実際と作業分析	素材である革の特性が理解できる				鈴木	
9 10	5. 10. 19 (木) 1-2	革細工の実際と治療的応用	作品づくりを通して、革細工の一連の技法を理解できる				鈴木	
11 12	5. 10. 26 (木) 1-2	簾細工の実際	作品と作業工程との関連が理解できる				鈴木	
13 14	5. 11. 2 (木) 1-2	音楽の治療的応用	音楽を通しての関わり方、治療への転換が理解できる				鈴木 スポット	
15 16	5. 11. 18 (土) 2-3	絵付け・施釉の実際	絵付け・施釉の方法を説明できる				藤井 加藤	
17 18	5. 11. 18 (土) 4-5	本焼きの実際、作業分析	本焼きの方法を説明できる。作品の治療的利用について説明できる				藤井 加藤	
19 20	5. 11. 9 (木) 1-2	絵画：集団で行う作業活動	集団でひとつの作品を作りあげる意義が理解できる				鈴木	
21 22	5. 11. 16 (木) 1-2	グループワーク：自分を他者に理解してもらう	自分の考えを他者に伝えることを治療的に指導する				佐々木	
23 24	5. 11. 30 (木) 1-2	環境移行と社会に適応するための技能	挨拶・感謝・謝罪・友人を作る・文化的適応の意味				佐々木	
25 26	5. 12. 7 (木) 1-2	セルフコントロールとレジリエンス	ストレス・困難を抱えても、明るく前向きに生きる			佐々木		
27 28	5. 12. 14 (木) 1-2	社会的マナー	他者と協業するために必要な技能(距離、アサーション)			佐々木		
29 30	5. 12. 21 (木) 1-2	アドバイスなど	他者から必要とされるために必要な技能を理解する			佐々木		
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：鈴木明子，福田恵美子訳：フィドラーのアクティビティ論．医学書院，2007． 小林夏子，福田恵美子：基礎作業学．医学書院，2007．							
履 修 上 の 注 意	9月30日(土)と11月18(土)は10時20分までに、作業療法評価実習室（1階南の体育館側）に集合してください。陶芸を行います。エプロンとタオルを持参下さい。加えて、9月30日(土)に雑巾1枚を提供願います。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望します。課題は、提出〆切を厳守してください。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	藤 井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 鈴 木：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp 佐々木：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp 加 藤：弘前大学 加藤研究室 takuhiko@hirosaki-u.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
運動学Ⅰ	理学・作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 教 授・加藤 浩 教 授・鈴木 克彦 准教授・仁藤 充洋 講 師・室伏 祐介	必修	1	後期	2	非該当	否
授業概要	人体にある様々な関節の構造やその機能・メカニズムについて教授する。 身体の基本的な動作を運動学・運動学的に解説する。							
一般目標	骨・関節・筋の形態、機能の面から、身体の運動の仕組みを理解できる。							
到達目標	上肢・下肢・体幹の関節運動およびその仕組みを説明できる。 主要な筋の起始、停止、走行、作用、神経支配を説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価は定期試験で判断します。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 25 (月) 5	運動学概説	身体運動学の捉え方と 時間・空間的表現				加藤	
2	5. 9. 27 (水) 5	運動器の構造と機能	関節分類、骨格筋構造、 運動方向、筋収縮				佐藤 仁藤	
3	5. 10. 2 (月) 5	肩複合体の運動学Ⅰ	肩関節複合体の構造と 運動・筋Ⅰ				佐藤 仁藤	
4	5. 10. 4 (水) 5	肩複合体の運動学Ⅱ	肩関節複合体の構造と 運動・筋Ⅱ				佐藤 仁藤	
5	5. 10. 11 (水) 5	肘関節・前腕の運動学	肘および前腕の構造と 運動・筋				佐藤 仁藤	
6	5. 10. 16 (月) 5	手関節・手指の運動学Ⅰ	手関節および手指の構 造と運動・筋Ⅰ				佐藤 仁藤	
7	5. 10. 18 (水) 5	手関節・手指の運動学Ⅱ	手関節および手指の構 造と運動・筋Ⅱ				佐藤 仁藤	
8	5. 10. 23 (月) 5	股関節の運動学Ⅰ	股関節の構造と運動・ 筋Ⅰ				室伏	
9	5. 10. 25 (水) 5	股関節の運動学Ⅱ	股関節の構造と運動・ 筋Ⅱ				室伏	
10	5. 10. 30 (月) 5	膝関節の運動学	膝関節の構造と運動・ 筋				室伏	
11	5. 11. 1 (水) 5	足関節・足部の運動学	足関節・足部の構造と 運動・筋				鈴木	
12	5. 11. 6 (月) 5	脊柱・体幹の運動学Ⅰ	脊柱の構造・運動				鈴木	
13	5. 11. 8 (水) 5	脊柱・体幹の運動学Ⅱ	胸郭の構造と換気の運 動学				鈴木	
14	5. 11. 13 (月) 5	姿勢と動作の捉え方	姿勢と動作の運動学的 表現				加藤	
15	5. 11. 15 (水) 5	歩行	歩行周期の分類				加藤	
教科書	教科書：エッセンシャル・キネシオロジー（第3版）．南江堂，2020 参考書：プロメテウス解剖学アトラス運動器系（第3版）．医学書院．2017 基礎運動学（第6版）．医歯薬出版，2020 必要に応じてプリントを配布します。							
履修上の注意								
学生への メッセージ	理学療法、作業療法の基礎となる科目の一つです。筋の起始、停止、走行、作用、神経支配は 正確にすばやく答えることができるよう地道に努力しましょう。							
e-mail・研究室 (連絡先)	佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 仁藤：研究室 26 mnito@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
運動学Ⅱ		理学・作業療学科 (専門科目)	教 授・加藤 浩 教 授・佐藤 寿晃 准教授・鈴木 由美	必修	2	前期	2	非該当	否			
授業概要		・運動学Ⅰで学んだ身体機能解剖の知識を利用して、運動や動作の具体的な分析方法を教授する。 ・基本動作として寝返りや起き上がり等を、日常生活活動として更衣動作や食事動作等を分析する。グループワークによる直視および動作観察・分析を中心に講義・演習を展開する。										
一般目標		・身体機能解剖学と生体力学の知識を使用して、基本的な動作・活動を運動学的に記述し、考察する方法を理解する。										
到達目標		・運動や動作を観察し、運動学的用語を用いて表現することができる。 ・基本的な起居動作や身の回り動作の運動パターンと各関節の可動域、筋活動、重心の動きを関連付けて説明できる。										
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		成績は定期試験で判断します。										
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当				
1	5. 4. 14 (金) 1	姿勢と動作の捉え方	重力と身体重心の捉え方				解剖学、生理学、運動学をしっかりと復習しておくこと	加藤				
2	5. 4. 21 (金) 1		床反力の捉え方									
3	5. 4. 28 (金) 1		筋力（関節モーメント）の捉え方									
4	5. 5. 12 (金) 1	歩行動作分析（運動学分析）	正常歩行時における身体重心、関節可動域、筋活動の特徴									
5	5. 5. 19 (金) 1	歩行動作分析(運動力学分析)	正常歩行時における床反力、関節モーメント、関節パワーの特徴									
6	5. 5. 26 (金) 1	姿勢制御	逆応答現象、counter-weight、counter-activity、counter movement、tentacle activity									
7	5. 6. 2 (金) 1	起居動作の観察・分析	実習（グループワーク）									
8	5. 6. 16 (金) 1	歩行動作の観察・分析	実習（グループワーク）									
9	5. 6. 23 (金) 1	肩複合体	解剖学、生理学の知識を用いて身体運動の観察や分析に使用する具体的方法を講義、ビデオを用いて授業を展開します。					佐藤 鈴木				
10	5. 6. 30 (金) 1	肘と前腕										
11	5. 7. 7 (金) 1	手										
12	5. 7. 14 (金) 1	更衣、食事動作の観察・分析	更衣、食事動作の観察・分析のポイント									
13	5. 7. 21 (金) 1		実習（グループワーク）									
14	5. 7. 25 (火) 1											
15	5. 7. 28 (金) 1		観察・分析結果の発表									
教 科 参 考 図 書		教科書： エッセンシャル・キネシオロジー Paul Jackson Mansfield 著、弓岡光徳 訳（南江堂） 参考書： 筋骨格系のキネシオロジー Neumann、D. A 著 嶋田智明 訳（医歯薬出版） 必要に応じてプリントを配布します。										
履 修 上 の 注 意		実習（グループワーク）の授業の時は、動きやすく、動作観察が可能な服装で参加すること。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		動作の観察・分析は障がい構造を把握する上で、欠かすことのできない重要な評価手段です。 普段の生活においても運動学的に観察・分析する思考パターンを身につけて下さい。										
e-mail・研究室 (連 絡 先)		加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp										

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
体表解剖学		作業療法学科 (専門科目)	准教授・千葉 登 助 教・高畑 未樹	選択	1	後期	1	非該当	否
授業概要		作業療法に必要な体表からの肉眼解剖と機能解剖及び触診技術を理解・習得させる。							
一般目標		作業療法に必要な体表からの肉眼解剖と触診技術を習得・理解する。							
到達目標		体表からの肉眼解剖と筋の機能を説明できる。 体表からの骨・筋・靱帯の触診方法を説明できる。 体表からの骨・筋・靱帯の触診が行える。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		期末試験：知識、理解度、論理的思考に関して到達目標を達成しているか判断します。 最終成績：期末試験の成績により成績評価をします。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 11. 20 (月) 3	触診の基本	触診の基本的事項					千葉 高畑	
2	5. 11. 27 (月) 3	頸・頭部・体幹	頸・頭部・体幹の骨及び筋・靱帯						
3	5. 12. 4 (月) 3	上肢帯	肩甲骨・鎖骨						
4	5. 12. 11 (月) 3	上肢（上腕）	上腕部の骨及び筋・靱帯						
5	5. 12. 18 (月) 3	上肢（前腕）	前腕部の骨及び筋・靱帯						
6	5. 12. 25 (月) 3	上肢（手・手指）	手・手指の骨及び筋・靱帯						
7	6. 1. 15 (月) 3	下肢（骨盤・大腿部）	骨盤・大腿部の骨及び筋・靱帯						
8	6. 1. 22 (月) 3	下肢（下腿部・足部）	下腿部・足部の骨及び筋・靱帯						
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：触診解剖学アトラス第3版. 医学書院, 東京, 2018. 参考図書：新・徒手筋力測定法 原著第10版 共同医書出版, 東京, 2020.							
履 修 上 の 注 意		生体形態学・運動学Ⅰで教わった知識の復習をして臨むこと。 実技を伴う講義となりますので、実技にふさわしい服装で出席すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望します。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp 高畑：理作共同研究室 mtakahata@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法管理学	作業療法学科 (専門科目)	教授 佐藤寿晃 教授 藤井浩美	必修	4	後期	2	非該当	否
授業概要	本科目では ・作業療法におけるマネジメント ・リスク管理の重要性 ・作業療法の職種、諸制度 ・作業療法士のキャリア開発 について教授する。							
一般目標	・作業療法におけるマネジメントについて理解できる。 ・リスク管理の重要性について理解できる。 ・作業療法の職種、諸制度について理解できる。 ・作業療法士のキャリア開発について理解できる。							
到達目標	・作業療法におけるマネジメントについて説明できる。 ・リスク管理の重要性について説明できる。 ・作業療法の職種、諸制度について説明できる。 ・作業療法士のキャリア開発について説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	到達目標内容をまとめたレポート（800 字程度）で評価します。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外 学習など	担当			
1, 2	5. 9. 29 (金) 1-2	作業療法におけるリスク管理			佐藤			
3, 4	5. 10. 6 (金) 1-2							
5, 6	5. 10. 13 (金) 1-2	作業療法におけるマネジメント			藤井			
7, 8	5. 10. 20 (金) 1-2							
9, 10	5. 10. 27 (金) 1-2	作業療法の職域 作業療法を取り巻く諸制度			スポット講師			
11, 12	5. 11. 10 (金) 1-2							
13, 14	5. 11. 17 (金) 1-2	作業療法士のキャリア開発						
15	5. 12. 1 (金) 1							
教 科 書 参 考 図 書	必要に応じてプリント配布							
履 修 上 の 注 意	臨床実習の経験を生かし、積極的に参加して下さい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	学生生活の総集として捉え、卒後に生かせるテーマで講義を進めていきたい。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 藤井：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法評価学概論		作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 准教授・鈴木 由美	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要		作業療法(Occupational Therapy: OT)に必要な評価の考え方を学ぶ。							
一般目標		OT を展開する上で必要な評価の考え方、具体的方法を理解する。							
到達目標		OT を展開する上で必要な評価の考え方、具体的方法を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		総合テスト：達成目標に達しているかを判断します（60 点以上を合格とします）。 小テスト：前回の講義で重要な内容を次の講義開始後 10 分間で毎回確認します。各回ともに 60 点以上を合格とします。 最終成績：期末試験（65%）、7 回の小テスト（35%）の結果から成績評価を行います。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 25（月）3	OT 評価学の基礎	評価の意義と目的、対象、評価手順、 治療計画と記録および報告の流れを 説明できる。					佐藤 鈴木	
2	5. 10. 2（月）3	領域共通の評価法 1	観察、面接、検査と測定、作業活動 の内容と評価尺度を説明できる。				テスト①		
3	5. 10. 16（月）3	領域共通の評価法 2	国際生活機能分類に沿った日常生 活活動のとらえ方を説明できる。				テスト②		
4	5. 10. 23（月）3	領域共通の評価法 3	身辺動作の作業分析を説明できる。				テスト③		
5	5. 10. 30（月）3	領域共通の評価法 4	全身状態のとらえ方を説明できる （生命維持兆候や意識など）。				テスト④		
6	5. 11. 6（月）3	領域共通の評価法 5	身体状態のとらえ方を説明できる （関節可動域、感覚、筋力、姿勢反 射、協調性、脳神経など）。				テスト⑤		
7	5. 11. 13（月）3	領域共通の評価法 6	精神状態のとらえ方ができる（意識、 感情、記憶、思考、知能、認知など）。				テスト⑥		
8	5. 11. 27（月）4	修得項目の確認	OT を展開する上で必要な評価の考 え方、具体的方法を説明できる。				テスト⑦		
教 科 書		藤井浩美編：日常生活活動の作業療法。中央法規出版株式会社, 2014。 矢谷令子監：作業療法評価学（第 3 版）。医学書院、東京, 2017。 津山直一：新・徒手筋力検査法（第 8 版）。協同医書出版社, 東京, 2008。							
履 修 上 の 注 意		予習をしてから授業に臨んでください。 授業での講義と討議内容の修得状況をその日の修得確認表を用いて確認します。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望しま す。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法評価学演習Ⅰ		作業療法学科 (専門科目)	准教授・千葉 登 准教授・外川 佑 助 教・井上 香 助 教・高畑 未樹	必修	2	前期	2	非該当	否
授業概要		身体機能障害および高齢期における作業療法評価に共通かつ基礎となる検査・測定を中心に理解させる							
一般目標		作業療法評価で用いられる各種検査・測定の適用，実施手順，解釈のポイントについて理解する							
到達目標		1) 各種検査・測定を実施する目的について説明できる。 2) 各種検査・測定を実施できる。 3) 各種検査・測定を被験者に配慮して実施できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実技試験（口頭試験含む）：合格基準 60% 期末試験：合格基準 60% 最終成績：実技試験、期末試験ともに合格に達し、実技試験（50%）および期末試験（50%）により成績評価を決定します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 12（水）3	オリエンテーション 全身状態の観察	意識，バイタルサインの評価			覚えることが多いので予習、復習を行ってください。		千葉 外川 井上 高畑	
2	5. 4. 12（水）4	身体計測	骨マーカーの触診，身体計測						
3	5. 4. 12（水）5	関節可動域測定Ⅰ	上肢の関節可動域の測定						
4	5. 4. 19（水）3	関節可動域測定Ⅰ	上肢の関節可動域の測定						
5	5. 4. 19（水）4	関節可動域測定Ⅱ	手指の関節可動域の測定						
6	5. 4. 19（水）5	関節可動域測定Ⅲ	下肢の関節可動域の測定						
7	5. 4. 26（水）3	関節可動域測定Ⅳ	体幹の関節可動域の測定						
8	5. 4. 26（水）4	徒手筋力検査Ⅰ	上肢の徒手筋力検査の実施						
9	5. 4. 26（水）5	徒手筋力検査Ⅰ	上肢の徒手筋力検査の実施						
10	5. 5. 10（水）3	徒手筋力検査Ⅱ	手指の徒手筋力検査の実施						
11	5. 5. 10（水）4	徒手筋力検査Ⅲ	下肢の徒手筋力検査の実施						
12	5. 5. 10（水）5	徒手筋力検査Ⅲ	下肢の徒手筋力検査の実施						
13	5. 5. 17（水）3	徒手筋力検査Ⅳ	頸部，体幹の徒手筋力検査の実施						
14	5. 5. 17（水）4	筋緊張・脳神経検査	筋緊張（腱反射）・脳神経						
15	5. 5. 17（水）5	感覚・知覚検査	感覚検査（表在，深部，複合）の実施						
16	5. 5. 24（水）3	反射検査Ⅰ	反射検査（表在，深部，病的）の実施						
17	5. 5. 24（水）4	反射検査Ⅱ	反射検査（原始，姿勢，口腔）の実施						
18	5. 5. 24（水）5	平衡機能検査・協調性検査	平衡機能・協調性検査の実施						
19	5. 5. 31（水）3	上肢機能検査	Br. stage テスト実技/STEF・MFT						
20	5. 5. 31（水）4	上肢機能検査	Br. stage テスト実技/STEF・MFT						
21	5. 5. 31（水）5	高齢者体力テスト	握力、ピンチ力、立ち座りテスト等						
22	5. 6. 7（水）3	知的機能検査	MMSE, HDS-R, Kohs , RCPM						
23	5. 6. 7（水）4	視知覚機能検査	VPTA, BVRT						
教 科 書 参 考 図 書		教科書：標準作業療法学 作業療法評価学（第3版）. 医学書院, 東京, 2021. ベッドサイドの神経の診かた（第18版）. 南山堂, 東京, 2019. 新・徒手筋力検査法 第10版. 協同医書出版社, 2020. 高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング, 1991							
履 修 上 の 注 意		実技を含むため、動きやすい服装で出席して下さい。 細かなスケジュールについては、授業で配布します。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		目的意識を持って臨んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp 外川：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp 井上：理学作業共同研究室 kainoue@yachts.ac.jp 高畑：理学作業共同研究室 mtakahata@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法評価学演習Ⅱ		作業療法学科 (専門科目)	講 師・佐々木 学 助 教・川勝 祐貴	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	精神疾患に対する作業療法での評価は観察が主体である。これは、精神疾患患者が自己についての認知の歪みや、うまく表現できないなどの場合があることが多いためであり、これらを理解した臨床観察が必要である。また、地域移行支援推進のため、他職種との連携で活用できる行動評価や退院可能者のスクリーニングが必要である。これらを紹介し、活用ができるようになることが重要である。								
一般目標	精神障がい領域で必要とされる各種の評価を理解することができる。								
到達目標	授業で紹介された評価の概要と適用を述べることができる。 評価を実施し、採点、解釈を行うことができる。 対象者の状態や施設の目的を理解し、評価実施の総合的判断の重要性を理解できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	総合問題により判断する。知識の記憶ではなく、柔軟な試行が可能かを問うので、各評価を十分に理解し、活用ができるように準備してほしい。 成績判定は、F 判定： 臨床実習に必要なレベルに達していない。わずかな事項についての理解にとどまる D 判定： 臨床実習に必要な最低限の知識・技能があると判断されるが、不足がある C 判定： 臨床実習に必要な最低限の知識・技能があると判断される B 判定： 発展的な意見が述べられている A 判定： 秀でた独創的知見が述べられている								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法	授業外学習など		担当		
1, 2	5. 5. 18 (木) 1・2	(生活)臨床観察 1		教科書、配布資料を用いて、症例のサマリーシートを再評価することが行われる。また、自己評価を行うこともある	これらの評価方法は、作業療法や他の職種の多くの教科書で取り上げられている。また、雑誌などにも活用例が多数掲載されているので、図書館での文献検索を行い、これらを読むことが推奨される。		川勝 川勝 川勝 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木・川勝 佐々木		
3, 4	5. 5. 25 (木) 1・2	(作業)臨床観察 2							
5, 6	5. 6. 1 (木) 1・2	(臨床)臨床観察 3							
7, 8	5. 6. 8 (木) 1・2	(全般)ICF, GAF, BPRS							
9, 10	5. 6. 15 (木) 1・2	(行動)LASMI, 他							
11, 12	5. 6. 22 (木) 1・2	(職)MWS, MSFAS, GATB							
13, 14	5. 6. 29 (木) 1・2	(認知)BACS-J, 他							
15	5. 7. 6 (木) 2	(鬱・ストレス)Zung, HAM-D, BDI, 職業性ストレス尺度							
教 科 書 参 考 図 書		(教科書 1) 張 賢徳(訳)：精神科面接マニュアル、メディカルサイエンスインターナショナル、第 3 版 (教科書 2) 稲田俊也ほか：客観的精神科評価尺度ガイド、じほう、2016							
履修上の注意		特になし							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		各評価を学生自身に対して実施するが、強く受け止めすぎないようにしてほしい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐々木：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp 川 勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yacgts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法 評価学演習Ⅲ		作業療法学科 (専 門 科 目)	教 授・佐藤 寿晃 准 教 授・森 直樹 准 教 授・外川 佑 非常勤講師・黒淵 永寿	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要		発達障害領域で用いられる主要な評価を概説し、各疾患に適した評価・検査を遂行ができるように演習を通して学ぶ。具体的には、基本的な実施方法、手順、留意点を学び、実技を通して的確に実施できるよう技術を身につける演習を通じて教授する。また、作業療法に必要とされる画像評価についても教授する。							
一般目標		発達過程作業療法における面接法を習得する。 発達過程作業療法で使用される検査の目的・留意点について理解する。 発達全般を評価する検査について理解する。 発達過程作業療法における運動機能、感覚統合機能、視知覚・視覚認知、知的・認知機能、行動、作業遂行・身辺処理とその障害について理解する。各疾患特性に応じた適切な評価・検査を列挙できる。 脳画像の基礎知識を習得し、画像から脳の異常部位および疾患を指摘できる。 骨・筋系画像の基礎知識を習得し、画像から脳の異常部位および疾患を指摘できる。							
到達目標		情報収集をするうえでの必要な項目を列挙し面接における留意点を説明できる。 発達検査の目的と検査の選択、実施する際の留意点を説明できる。 発達過程作業療法における運動機能、感覚統合機能、視知覚・視覚認知、知的・認知機能、行動、作業遂行・身辺処理とその障害について説明できる。また、各機能を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。 脳の構造を理解し、各種病変について画像を元に説明できる。 骨・筋系の構造を理解し、各種病変について画像を元に説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（100%）から判断する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法			授業外学 習など	担当
1 2	5. 5. 9（火）2 5. 5. 9（火）3	発達過程作業療法における家族との面接法、発達検査の目的と留意点			情報収集するうえでの必要な項目を列挙し、面接時の留意点を学習する。さらに、発達全般を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう学習する。				森
		発達全般を評価する検査・演習			発達全般を評価する検査名を列挙し検査の特性を把握するため、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。				
3 4	5. 5. 16（火）2 5. 5. 16（火）3	運動機能評価の評価・演習			運動機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。				

5 6	5. 5.23 (火) 3	姿勢筋緊張、反射・反応の評価・演習	姿勢筋緊張、反射・反応の評価、測定方法について演習を通して学習する。		森
	5. 5.23 (火) 5	視知覚・視覚認知の評価・演習	視知覚・視覚認知とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。		
7 8 9 10	5. 5.20 (土) 1 5. 5.20 (土) 2 5. 5.20 (土) 3 5. 5.20 (土) 4	感覚統合評価機能の評価・演習	感覚統合機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。	集中講義	黒淵 森
11 12 13	5. 5.30 (火) 2 5. 5.30 (火) 3 5. 5.30 (火) 5	知能・認知機能の評価・演習	知能・認知機能とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。		森
		行動の評価・演習	適応行動とその障害、評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。		
		作業遂行・身辺処理の評価・演習 疾患・障害による評価の選択	作業遂行とその障害、身辺処理を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できるよう演習を通して学習する。また、疾患・障害による評価の選択を説明できるよう学習する。		
14	5. 6.16 (金) 3	骨・筋系画像所見の診かた	X線, MRI, エコー等の骨・筋系画像の診かたについて、講義、演習を行い学習する。		佐藤
15	5. 6. 6 (火) 2	脳画像所見の診かた	CT, MRI, SPECT等の脳画像の診かたについて、講義、演習を行い学習する。		外川
教科書		教科書：標準作業療法学 作業療法評価学第3版(医学書院)、人間発達学第5版(中外医学社)、			
参考図書		プリント等、必要に応じて配布する			
履修上の注意		外部講師により集中講義を休日に実施する予定です。			
学生へのメッセージ		限られた時間で多くの発達障害領域の評価法、骨・筋系画像所見、脳画像の診かたを学習します。主体的に予習、復習を行い授業に臨んでください。			
e-mail・研究室 (連絡先)		佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 森：研究室34 nmori@yachts.ac.jp 外川：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作 業 療 法 評 価 学 実 習		作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤寿晃 准教授・森 直樹 准教授・千葉 登 准教授・外川 佑 講 師・佐々木学 助 教・井上 香 助 教・川勝祐貴	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		各領域（身体機能、精神機能、高齢期、小児期）での障がい有する対象者等への面接・検査・測定・動作分析等を実践し、対象者の問題点、プログラムの立案などの作業療法の流れを学内および学外実習を通じて教授する。具体的には、基本的な実施方法、手順、留意点等を学び、実技を通して的確に実施できる技術を身につけるよう実習を通じて教授する。							
一般目標		各領域（身体機能、精神機能、高齢期、小児期）での障がい有する対象者への面接・検査・測定・動作分析等を実践し、対象者の問題点、プログラムの立案などの作業療法の流れを学内および学外実習を通じて理解できる。また、一部を実践し、理解を深めることができる。							
到達目標		① 障がい有する対象者に対しての評価の流れを理解できる。 ② 障がい有する対象者に対して具体的な治療計画を立案することができる。 ③ 作業療法評価の一部について対象者への介入を具体的に実践・理解できるようになる。 ④ 評価した内容を明確に記録し、理解することができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		レポート：レポートでは学外実習での作業療法実践を理解されているかを判断します。 理解度に応じて A（100 点）、B（85 点）、C（75 点）、D（65 点）、F（59 点以下で得点化 します。）レポート提出は期限までの必須条件（未提出者は単位認定しません）。 最終成績：各領域で提出されたレポートの平均を成績評価とします。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			担当		
1	後 日 連 絡	オリエンテーション		作業療法評価学実習の進め方について			千葉		
2	第 1 期 5.5.22（月） ～ 5.6. 2（金）	身体機能領域における評価実習		身体障害領域の病院、施設において作業療法評価の用いる面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画を立案し実践を学ぶ。			佐藤・千葉		
3									
4									
5									
6	第 1 期 5.5.22（月） ～ 5.6. 2（金）	精神機能領域における評価実習		県内外の医療機関などにて、初期面接から介入までに必要な情報を得るための評価（叙述的评价など）を行う。			佐々木・川勝		
7									
8									
9									
10	第 2 期 5.7.10（月） ～ 5.7.21（金）	小児期領域における評価実習		保育園、通園施設、療育機関などの実習を通して、子ども特性、発達を学び、作業療法評価の視点を学習する。また、事例を通して具体的な治療計画を立案し、実践を学ぶ。			森		
11									
12									
13									
14	第 2 期 5.7.10（月） ～ 5.7.21（金）	高齢期領域における評価実習		高齢者施設等において、高齢期における特徴を踏まえた、面接、観察、検査、測定を実際に経験する。また、作業療法計画を立案し実践を学ぶ。			外川・井上		
15									
16									
17									
18	後 日 連 絡	オリエンテーション		作業療法評価学実習のまとめ			千葉		
19									
20									
21									
教 科 書 参 考 図 書		これまで講義等で使用した教科書・参考書・プリント							
履 修 上 の 注 意		●学外での実習も含みますので、実技のできる服装、長髪の方は髪を束ねる、つめを切って出席してください。●詳細については各領域にて説明します。●この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりして授業に臨むことを希望します。具体的な日程については各担当者から連絡があります。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		担当教員 千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児期作業療法学		作業療学科 (専 門 科 目)	准教授・森 直樹	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要		発達過程作業療法を実践する際の基本的な知識基盤を理解する。また、発達過程作業療法の実践過程、地域支援について学習する。							
一般目標		1) 発達過程作業療法の基本的な捉え方ができるようになるための知識基盤を理解する 2) 発達過程作業療法が行われている現場の職務内容について理解する 3) 発達過程作業療法を実践できるようになるために、その実践過程に関連する事項について理解する 4) 発達過程作業療法の実践過程を記録し、作成することができる 5) 発達過程作業療法の地域支援の場で活躍するために、地域支援システムと病院、放課後等デイサービス、学校、保育所、就労支援機関での作業療法士の役割、業務内容を理解する							
到達目標		・発達過程作業療法の理念、目的、形成（歴史）と変遷について述べることができる ・定型発達児の発達過程を示し、発達遅滞の症状とその時期について述べることができる ・発達過程作業療法の対象疾患と障害、またそれに伴う発達遅滞症状について示すことができる ・発達過程作業療法に関連する法規、制度について理解を深める ・発達過程作業療法に携わる作業療法士に求められる役割と資質を述べ、実際に行動に移すことができる ・発達過程作業療法が行われている現場の職務内容について理解する ・発達過程作業療法を実践できるようになるために、その実践過程、記録に関連する事項について十分に理解する ・発達過程作業療法における地域リハビリテーションについて述べることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（90%）、レポート（10%）から判断する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学 習など	担当	
1 2 3 4	5.4.11（火）2 5.4.11（火）3 5.4.14（金）2 5.4.14（金）3	発達過程作業療法の基礎	1) 発達過程作業療法の理念と目的、歴史と変遷について学習する 2) 人間の発達過程と作業療法に必要な知識について学習する 3) 発達過程作業療法の対象疾患と発達遅滞症状について学習する 4) 発達過程作業療法に関連する法規・制度 5) 発達過程の子どもたちに携わる作業療法士の役割と資質					森	
5 6	5.4.18（火）2 5.4.18（火）3	発達過程作業療法の実践現場と実践過程および記録	1) 発達過程作業療法の実践の場について学習する 2) 発達過程作業療法における基本的実践過程を学習する 3) 発達過程作業療法における記録について学習する					森	
7 8	5.4.25（火）2 5.4.25（火）3	発達過程作業療法の地域支援	1) 病院施設から地域への変化を学習する 2) 地域支援のシステムを学習する 3) 作業療法士のかかわりを学習する						
教 科 書 参 考 図 書		教科書：発達過程作業療法学第3版（医学書院）、人間発達学第5版（中外医学社）							
履 修 上 の 注 意		外部講師により集中講義を予定しております。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		限られた時間で多くの発達障がい領域の基礎知識を学習します。主体的に予習、復習を行い授業に臨んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		森直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児期 作業療法学演習		作業療法学科 (専 門 科 目)	准 教 授・森 直 樹 非常勤講師・黒淵 永寿	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		小児期作業療法の対象疾患に対して、評価～治療立案、作業療法実践について理解するとともに、評価に用いられる測定・検査を行い、その解釈について教授する。なお、小児がん、内部障害に対する講義は内部障害作業療法学で教授する。							
一般目標		小児期作業療法の主たる対象疾患の臨床像、医学的治療、作業療法評価、作業療法の実践内容について理解する。							
到達目標		・主たる対象疾患の臨床像について述べることができる ・主たる臨床像、障害構造から適切な作業療法評価内容を示すことができる ・評価結果から、疾患に起因する生活行為（活動、参加）や作業遂行要素（心身機能、身体構造）の障害およびその関連について示し、全体像をまとめることができる ・主たる対象疾患の医学的治療内容と作業療法の治療・実践内容を検討することができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（100%）から判断する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5.11. 7 (火) 3	小児期作業療法における基本的実践過程	小児期作業療法の実践過程及び ICF を考慮した作業療法について学習する。また、一連の「記録」に関する種類、目的各記録方式の内容を学習する					森	
2	5.11. 7 (火) 4	NICU 児に対する評価とアプローチ	NICU 児の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する					スポット (渋間) 森	
3 4 5	5.11.14 (火) 3 5.11.14 (火) 4 5.11.14 (火) 5	脳性麻痺児に対する評価とアプローチ	脳性麻痺児の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する					森	

6	5.11.17（金）1	神経発達症／神経発達障害群、骨関節疾患に対する評価とアプローチ	神経発達症（限局性学習症、注意欠場・多動症、自閉スペクトラム症、発達性協調運動症）、骨関節疾患の多様な臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する	集中講義	黒 渕 森
7	5.11.17（金）2				
8	5.11.17（金）3				
9	5.11.17（金）4				
10	5.12.12（火）3	重症心身障がい児（者）に対する評価とアプローチ	重症心身障害児（者）の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する		森
11	5.12.12（火）4				
12	5.12.19（火）3	知的能力障害、強度行動障害に対する評価とアプローチ	知的能力障害、強度行動障害の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する		森
13	5.12.19（火）4				
14	6. 1.16（火）3	筋ジストロフィー、二分脊椎に対する評価とアプローチ	筋ジストロフィー、二分脊椎の臨床像を把握し、作業療法評価から問題点の抽出、治療計画、具体的な治療手段を講義、視覚教材、実技等を通して学習する。また、具体的な事例を通して作業療法実践について学習する		森
15	6. 1.16（火）4				
教科書 参 考 図 書		教科書：発達過程作業療法学第3版（医学書院）、プリント等			
履 修 上 の 注 意					
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		限られた時間で多くの小児期作業療法領域の疾患別評価とアプローチを学習します。主体的に予習、復習を行い授業に臨んでください。			
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		森直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児期 作業療法学実習		作業療法学科 (専門科目)	准 教 授・森 直 樹 非常勤講師・黒渕 永寿	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要		小児期作業療法学、小児期作業療法学演習を踏まえ、作業療法実践過程で必要な評価と治療介入法について主に事例検討を通して教授する。							
一般目標		小児期作業療法に必要な評価の実施及び、問題点の抽出、治療目標、治療計画の立案ができる。							
到達目標		小児期作業療法に必要な評価の実施及び、問題点の抽出、治療目標、治療計画の立案と実践ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期テスト（80%）、課題(20%)から、総合的に判断します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学 習など	担当	
1 2	5. 6. 6（火）3-4	学内実習Ⅰ	小児期作業療法の実践課程について総括し、対象者を想定し評価演習を行う。					森	
3 4	5. 6.13（火）3-4	学内実習Ⅱ	事例検討を通して、作業療法プログラム立案、治療プログラムについて演習を行う。					森	
5 6	5. 6.16（金）3-4	学内実習Ⅲ	グループワークを通して、対象児の評価,問題点の抽出、治療目標、具体的な治療介入法について学習する。					森	
7 8 9	5. 6.20（火）3-5	学内実習Ⅳ	グループワークを通して、対象児の評価,問題点の抽出、治療目標、具体的な治療介入法について学習する。				集中講義	スポット (渡辺) 森	
10 11 12 13	5. 6.23（金）1-4	学内実習Ⅴ	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。				集中講義	黒渕 森	
14 15	5. 6.27（火）3-4	学内実習Ⅵ	多様な事例検討を通して、作業療法実践過程の修得を図る。教授法としてグループワークを通して、対象児の観察・評価の視点を養うとともに、具体的な治療介入法について学習する。					森	
教 参 考 図 書		適宜、プリント、資料を配布します。							
履 修 上 の 注 意		1)小児期作業療法学実習では実技・演習を行うため、動きやすい服装で出席してください。 2)集中講義については、授業の中で随時オリエンテーションを行います。 3)この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		主体的に予習、復習を行い積極的に実習に臨んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		森直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
身体機能 作業療法学		作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 准教授・千葉 登	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	身体に障がい有する対象者の臨床像の理解と作業療法評価、治療計画およびその実施方法を理解させる。								
一般目標	身体に障がい有する対象者の病態、作業療法(OT)評価、治療計画およびその実施方法を理解する。								
到達目標	身体に障がい有する対象者に対する病態と経過を説明できる。 身体に障がい有する対象者に対する OT 評価を説明できる。 身体に障がい有する対象者に対して OT 支援方法を説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	期末試験：知識、理解度、論理的思考に関して到達目標を達成しているか判断します。 小テスト：確認テスト等を行います。 最終成績：期末試験の成績により成績評価をします。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5. 6. 7 (水) 5	脊髄損傷	脊髄損傷の特徴とアプローチについて					佐藤	
2	5. 6. 14 (水) 3	関節リウマチ	関節リウマチの特徴とアプローチについて					佐藤	
3	5. 6. 14 (水) 4	整形外科領域	整形外科領域疾患の特徴とアプローチについて					佐藤	
4	5. 6. 21 (水) 3	脳血管障害の病像/運動機能／	脳血管障がい者の運動機能とそのアプローチについて					千葉	
5	5. 6. 21 (水) 4	脳血管障害の感覚機能／高次脳	脳血管障がい者の感覚障がいと高次脳機能障がいとそのアプローチについて					千葉	
6	5. 6. 28 (水) 3	脳血管障害の A D L／病期	脳血管障がいの ADL トレーニングと病期毎の留意点					千葉	
7	5. 6. 28 (水) 4	パーキンソン病／小脳疾患／多発性硬化症	各神経系疾患の特徴とアプローチについて					千葉	
8	5. 7. 5 (水) 3	筋萎縮性側索硬化症／ニューロパシーとミオパシー／頭部外傷	各神経系疾患の特徴とアプローチについて					千葉	
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：標準作業療法学 身体機能作業療法学（第4版）. 医学書院, 東京, 2021. 標準作業療法学 作業療法評価学（第3版）. 医学書院, 東京, 2021. 参考図書：日常生活活動の作業療法. 中央法規, 東京, 2014. ベッドサイドの神経の診かた（第18版）. 南山堂, 東京, 2019.							
履 修 上 の 注 意		作業療法評価学演習Ⅰで教わった検査・測定について復習してください。また、運動器障がい論と神経障がい論は本科目の基礎となる科目ですので復習をしてきてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望します。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
身体機能 作業療法学演習		作業療法学学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 准 教 授・千葉 登 非常勤講師・笹原 寛	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		身体に障がいをもつ対象者の臨床像の理解と作業療法評価、治療計画およびその実施方法を理解させる。							
一般目標		身体に障がいをもつ対象者の病態、作業療法評価、治療計画およびその実施方法を理解し、実施できる。							
到達目標		身体に障がいをもつ対象者に対する介入方法（評価、実技）を理解し実施できる。 身体に障がいをもつ対象者に対して評価～治療計画の立案について理解できる。 評価に用いられる測定・検査を行い、その解釈について考察することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		期末試験：到達目標を達成しているか判断します（60 点以上を合格とします）。 最終成績：期末試験にて評定します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外 学習など	担当	
1	5. 9. 29 (金) 3	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅰ			ROM-ex・ポジショニング			千葉	
2	5. 9. 29 (金) 4	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅱ			起居動作訓練			千葉	
3	5. 10. 6 (金) 3	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅲ			移乗移動訓練			千葉	
4	5. 10. 6 (金) 4	身体障害領域の作業療法治療・訓練方法Ⅳ			筋力訓練、バランス訓練			千葉	
5	5. 10. 13 (金) 3	脳卒中の作業療法治療・訓練方法			ブルンストローム法等			千葉	
6	5. 10. 13 (金) 4	脳卒中・パーキンソン病の ADL トレーニング			脳卒中、パーキンソン病等の ADL トレーニング			千葉	
7	5. 10. 20 (金) 3	脊髄損傷の作業療法治療・訓練方法			脊髄損傷の作業療法治療・訓練方法			佐藤	
8	5. 10. 20 (金) 4	関節リウマチの作業療法治療・訓練方法			関節リウマチの作業療法治療・訓練方法			佐藤	
9	5. 10. 27 (金) 3	脊髄損傷・関節リウマチの ADL トレーニング			脊髄損傷・関節リウマチの ADL トレーニング			佐藤	
10	5. 10. 27 (金) 4	末梢神経損傷の作業療法治療・訓練方法			整形外科領域の作業療法治療項目およびその訓練方法			佐藤 笹原	
11	5. 11. 10 (金) 3	骨折・脱臼の作業療法介入							
12	5. 11. 10 (金) 4	手の外科領域の作業療法介入							
13	5. 11. 24 (金) 3	各種疾患とスプリント適応Ⅰ			様々な疾患、障がいに対するスプリントの目的および適応			佐藤	
14	5. 11. 24 (金) 4	各種疾患とスプリント適応Ⅱ							
15	5. 12. 1 (金) 3	切断者の義肢装具			切断者の義肢装具の目的と適応			佐藤	
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：標準作業療法学 身体機能作業療法学（第 4 版）．医学書院，東京，2021． 標準作業療法学 作業療法評価学（第 3 版）．医学書院，東京，2021． 参考図書：日常生活活動の作業療法．中央法規，東京，2014． ベッドサイドの神経の診かた（第 18 版）．南山堂，東京，2019．							
履 修 上 の 注 意		実技を伴いますので、実技のできる服装、長髪の方は髪を束ねる、つめを切って出席してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。限られた時間なので、主体的に講義に参加して下さい。 欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと授業に臨むことを希望します。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
身体機能 作業療法学実習		作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 准 教 授・千葉 登	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	身体に障がい有する対象者に対する作業療法の流れ（評価～問題点抽出～目標設定～治療計画立案）に沿った実技を実施し、作業療法の実践を教授する。								
一般目標	対象者に対する作業療法の流れ（評価～問題点抽出～目標設定～治療計画立案）に沿った実技を実施し、作業療法の実践を理解する。								
到達目標	① 身体に障がい有する対象者に対する評価の流れを理解できる。 ② 事例を通して、臨床推論（クリニカルリーゼニング）ができるようになる。 ③ 模擬患者を想定した作業療法の面接、観察、検査・測定を実践できる ④ 事例を検討し、具体的な治療計画を立案することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	期末試験：到達目標を達成しているか判断します（60 点以上を合格とします）。 最終成績：期末試験にて評定します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外 学習など	担当	
1	5. 4. 14（金）3	オリエンテーション			臨床推論について			佐藤 千葉	
2	5. 4. 14（金）4	事例検討(1) 情報収集・面接・評価項目 の列挙			他部門からの情報および面接 内容から評価項目の臨床推論			佐藤 千葉	
3	5. 4. 14（金）5	評価の実践 1-①：バイタル・面接、姿勢			模擬患者を想定した実技の練習		作 業 療 法 評 価 学 演 習 I で 行 っ た 内 容 を 確 認 し て く だ さ い。 また、身体機 能 作 業 療 法 学、身体機能 作 業 療 法 学 演 習 の 復 習 を し て く だ さ い	佐藤 千葉	
4	5. 4. 21（金）3	評価の実践 2-①：起居、トランスファー、 歩行等							
5	5. 4. 21（金）4	評価の実践 2-②：起居、トランスファー、 歩行等							
6	5. 4. 21（金）5	評価の実践 3-①：ROM-T 等							
7	5. 4. 28（金）3	評価の実践 3-②：ROM-T 等							
8	5. 4. 28（金）4	評価の実践 4-①：片麻痺検査、協調性 検査・バランス等							
9	5. 4. 28（金）5	評価の実践 4-②：片麻痺検査、協調性 検査・バランス等							
10	5. 5. 12（金）3	評価の実践 5-①：脳神経検査、感覚等							
11	5. 5. 12（金）4	評価の実践 5-②：脳神経検査、感覚等							
12	5. 5. 12（金）5	事例検討(2) 治療計画の立案			事例を用いて問題点の抽出・ 目標設定・プログラムの立案			佐藤 千葉	
13	5. 5. 19（金）3	事例検討(3) 治療計画の実施			事例検討にて立案したプログ ラムの効果について検討			佐藤 千葉	
14	5. 5. 19（金）4	OSCE①			事例を想定した流れに沿った 評価の実施			佐藤 千葉	
15	5. 5. 19（金）5	OSCE②			事例を想定した流れに沿った 評価の実施			佐藤 千葉	
教 科 書 参 考 図 書	教 科 書：標準作業療法学 身体機能作業療法学（第 4 版）. 医学書院, 東京, 2021. 標準作業療法学 作業療法評価学（第 3 版）. 医学書院, 東京, 2021. 参考図書：日常生活活動の作業療法. 中央法規, 東京, 2014. ベッドサイドの神経の診かた（第 18 版）. 南山堂, 東京, 2019.								
履 修 上 の 注 意	●実技を伴いますので、実技のできる服装、長髪の方は髪を束ねる、つめを切って出席してください。●詳細については講義にて説明します。●この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	専門科目です。限られた時間なので、主体的に講義に参加して下さい。 欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりして授業に臨むことを希望します。								
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神機能作業療法学		作業療学科 (専門科目)	講師・佐々木 学 助教・川勝 祐貴	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要		精神障がい者に対するリハビリテーションの一つである作業療法は、精神監護法(1900年)を起源とする入院中心主義と共に発展したが、精神障害者の退院促進(平成14年度)や就労支援、地域包括ケアシステムの対象になる(平成29年度)など、作業療法は入院から地域までの対象者に幅広く実践されている。 本講義では、疾患の特性、理論的枠組み、入院での介入から精神科デイケア、地域・在宅、就労での介入、社会的問題、近年の動向などについて概説する。							
一般目標 GIO		精神科医療の概要と作業療法について理解する。 作業療法で使用されている理論や実施されている介入方法について理解する。 対象者の状態に応じて、提供されるプログラムが大きく異なることを理解する。							
到達目標 SBO		医療・福祉について 精神障害者に関連する医療・福祉の動向について説明することができる 精神障害者が利用できる医療・福祉サービスについて説明することができる 精神科医療にかかわる職種と病院などの機能・組織について説明することができる 代表的な疾患の受診から退院までの流れについて説明することができる。 触法精神障がい者の処遇について説明することができる 作業療法について 作業療法の対象となる代表的な疾患について説明することができる 伝統的作業療法について説明することができる 各種プログラム(機能維持、退院促進、在宅支援、就労(復学)支援など)について説明することができる 理論的枠組み、介入過程と手段について説明することができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		成績判定は筆記試験によりなされる。 A 100-90点 大学生として発展的な意見が述べられている B 89-80点 授業の内容を十分に理解している C 79-70点 授業内容を部分的に理解している D 69-60点 授業の内容を最低限理解している F 59以下 理解が不十分である							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1	5. 4. 6 (木) 1	精神科作業療法の歴史			講義形式中心で進められ、作業療法の臨床場面で使用される基本的な理論から今後必要と考えられる理論まで幅広く取り扱う。		図書館でDVDを視聴することを勧める。 当事者の手記や体験談などを読むことも推奨される。		佐々木
2	5. 4. 6 (木) 2	触法精神障害者の処遇							佐々木
3	5. 4. 20 (木) 1	精神疾患関連職種と病院等の機能・組織							川勝
4	5. 4. 20 (木) 2	代表的な疾患の精神病院での処遇							川勝
5	5. 4. 27 (木) 1	伝統的作業療法							川勝
6	5. 4. 27 (木) 2	治療理論1							佐々木
7	5. 5. 11 (木) 1	治療理論2							佐々木
8	5. 5. 11 (木) 2	アウトリーチ							佐々木
教 科 書 参 考 図 書		(教科書1) 現代臨床精神医学/金原出版株式会社 (教科書2) 分裂病の少女の手記—心理療法による分裂病の回復過程、セシユエ、みすず書房 (参考図書) 精神保健福祉白書、精神保健福祉白書編集委員会、中央法規(福祉一般) (参考図書) 風の歌を聴きながら、東瀬戸サダエ/ラグーナ出版(当事者本、就労関連)							
履 修 上 の 注 意		教科書2は、授業終了後までに一度読破し、理解することが望ましい。 出席不足の場合は定期試験を受けることができないので注意してほしい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		精神障がい・疾患は日常生活からは疎遠に感じるが、誰もが経験することが多い疾患であるだけでなく、身体障がいを対象とした作業療法場面であっても精神障がい者が発症した身体障がいに対して機能的アプローチを行うことは多いので、臨床家として理解する必要がある。							
e-mail・研究室 (連絡先)		佐々木：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp 川 勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yacgts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神機能作業療法学演習		作業療法学科 (専門科目)	講師・佐々木 学 助教・川勝 祐貴 非常勤講師 木内真美子	必修	2	後期	2	非該当	可
授業概要		デイケアにおける、復職支援や復学支援について学習する。 統合失調症，気分性障害，境界型人格障害，依存症へのアプローチを想定する。 2名の学生がペアとなり、1名が治療者、1名が患者を演じるロールプレイが行われる。 毎回、異なるテーマが設定され、配布した教材によって指導したり、教材作成などを行ったりしながら演習を行う。テーマは、学生の理解度や進行状況から変更される。 精神科デイケアでの治療的アプローチを中心に演習を行い、精神障がい者のリハビリテーションの介入過程を理解する。 講義の終盤では、症例についての作業療法実施計画書を作成する。							
一般目標		精神科デイケアで行われている支援を理解する 精神科デイケアの基本的役割について理解する 精神科デイケアで実施される復職支援、復学支援を理解する チーム医療理解の為、多くの者と意見交換を行うことができる レポート課題提出のため、計画的な行動をとることができる							
到達目標		対象者への面接・評価の内容を考えることができる 対象者への面接・治療的介入において、リーダー・サブリーダーの役割を理解・経験する 対象者への面接・治療的介入において、教材を理解し、作成する過程を経験する 精神科デイケア・プログラム(作業療法実施計画)を立案することができる(初期治療介入仮説，問題点抽出，目標設定，施設内プログラムの組み合わせと新しいプログラムの作成)							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		成績判定は作業療法実施計画を作成し、内容によって判定する A 100-90 点 実習生として発展的な意見が述べられている B 89-80 点 実習生として標準的な内容を十分記載することができる C 79-70 点 実習生として標準的な内容を部分的に記載することができる D 69-60 点 実習生として最低限の記載ができる F 59 以下 実習レベルに達していない							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	5. 9. 25 (月) 3 5. 9. 25 (月) 4 5. 10. 2 (月) 3 5. 10. 2 (月) 4 5. 10. 16 (月) 3 5. 10. 16 (月) 4 5. 10. 23 (月) 3 5. 10. 23 (月) 4 5. 10. 30 (月) 3 5. 10. 30 (月) 4 5. 11. 6 (月) 3 5. 11. 6 (月) 4 5. 11. 13 (月) 3 5. 11. 13 (月) 4 5. 11. 20 (月) 3	オリエンテーション，症例紹介 初回面接 職・学 1) 疾患教育 職・学 2) 服薬管理 職・学 3) 心理教育 職・学 4) スケジュール管理と生活習慣 職・学 5) SST/困っていることを解決する 職・学 6) ストレス・コーピング 職・学 7) アサーション 職・学 8) 困難を抱えても前向きに生きる 職・学 8) レクリエーション 職・学 9) 自主活動 職・学 10) 反省会 作業療法実施計画作成 1 解説・作成 作業療法実施計画作成 2 発表会			事前に教科書の予習、授業後に復習することが必要である。 講義は事例紹介と介入方法の紹介に大別される。		図 書 館 DVD、YouTube 等の動画サイトにて、広範囲な学習が推奨される。		佐々木 川勝 木内
教 科 書 参 考 図 書		(教科書) 香山明美, 精神障害作業療法/医歯薬出版株式会社 (参考図書) 精神障がいと回復、リバーマン/星和書店・・・SST (参考図書) 泣いて笑ってまた泣いた、倉科透恵/ラグーナ出版							
履 修 上 の 注 意		講義形式ではなく、ワークショップに近いので、驚かないようにしていただきたい。 進行の度合いにより、内容が若干、変更されることがある。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		本講義は臨床での対象者へのかかわり方を理解するものである。演習では実技的要素を重視しているが、実技のためには十分な知識が必要であり、どちらも良く研鑽してほしい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐々木：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp 川 勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神機能作業療法学実習		作業療学科 (専門科目)	講師・佐々木 学 助教・川勝 祐貴	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要		精神病院入院患者に対して行われる「精神科作業療法」を想定し、そこで実施される「退院促進プログラム」「身体機能維持プログラム」などについて学内実習する。 ロールプレイでは、1. 教員による説明、2. 教員によるデモンストレーション、3. 学生が実技の過程を踏むが、学生が演じる患者は、問題行動を起こす場面が設定され、これに対処する能力を養うことも要求される。 診療に必要な管理業務として、業務日誌、月報、備品管理なども指導される。 臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでの実習地は、単科精神病院、精神科ディケア、就労支援施設などで実施されているが、本授業は単科精神病院での精神科作業療法(入院)の範疇で考えられている。							
一般目標		精神疾患患者への人道的配慮ができる 精神病院、医療という枠組みを超えて、精神障がい者が一般社会で生活することの重要性を理解すること 地域生活のためには地域在住者の理解が必要だが、社会の理解の低さが精神障がい者の社会復帰を妨げる要因の一つであり、福祉の施策と医療従事者が訪問活動を通じて啓蒙することの重要性を理解すること 精神科作業療法の役割と機能を理解できること 精神科作業療法での作業療法実施計画を立案できること 精神科作業療法での治療プログラムを実施できること							
到達目標		臨床実習で担当することの多い4疾患に対する対応を大まかに理解・経験できる 臨床実習に必要な記録を理解・経験することができる 精神病院で必要な管理業務を理解・経験できる 精神疾患患者の行動特性を理解した指導ができる 精神疾患患者への臨機応変な対応ができる 長期入院の精神疾患患者に対して教育的指導が重要であることを理解できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		各回の実習状況のうち、治療者役の学生が指導している場面を評価する。 評価は以下の通りに行われる。 A 100-90 点 実習生として発展的な意見が述べられている B 89-80 点 実習生として標準的な内容を十分記載することができる C 79-70 点 実習生として標準的な内容を部分的に記載することができる D 69-60 点 実習生として最低限の記載ができる F 59 以下 実習レベルに達していない							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習 など		担当
1	5. 4. 12 (水) 3	オリエンテーション・実習準備			・4人1グループによるロールプレイ		・図書館 DVD、YouTube 等の動画サイトにて、広範囲な学習も推奨される。 ・作業療法実施計画は、総合実習Ⅰの様式が用いられるが、作成は各人が準備する(演習とは異なる)		佐々木 川勝
2	5. 4. 12 (水) 4	実習の記録物と病院で必要な管理文書			・4人のメンバーは異なる疾患患者(統合失調症・うつ病・境界型人格障害・依存症など)が設定される				
3	5. 4. 12 (水) 5	維ブ1)退促1)初回面接と情報収集			・OTS が担当患者を含むグループ指導にあたる場面が再現される。				
4	5. 4. 19 (水) 3	維ブ2)伝統的活動(芸・工・習・音など)			・実習構成は、前回記録の確認10分、ミニ講義10分、デモ20分、学生実技10分×4回、記録記入10分程度の時間配分である。				
5	5. 4. 19 (水) 4	維ブ3)身体機能評価とスポーツ、レク活動			・講義部分は事例紹介と介入方法の紹介に大別される。				
6	5. 4. 19 (水) 5	維ブ4)心理教育/退院で経験できること他							
7	5. 4. 26 (水) 3	維ブ5)個別プログラム							
8	5. 4. 26 (水) 4	退促2)訪問指導(整理、洗濯、買い物、調理)							
9	5. 4. 26 (水) 5	退促3)ケア会議							
10	5. 5. 10 (水) 3	退促4)心理教育/リラクゼーション他							
11	5. 5. 10 (水) 4	退促5)心教/アンチエイジング/食生活他							
12	5. 5. 10 (水) 5	退促6)在宅訪問指導							
13	5. 5. 17 (水) 3	退促7)個別プログラム							
14	5. 5. 17 (水) 4	維ブ6・退促8)反省会							
15	5. 5. 17 (水) 5	学生による作業療法実施計画発表会							
教 科 書		(教科書)山根寛、精神障害と作業療法、三輪書店							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		本実習では臨床での対象者へのかかわり方を理解するものである。疾患の特性を理解し、行動することが必要である。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐々木：研究室19 msasaki@yachts.ac.jp 川 勝：理作共同研究室 ykawakatsu@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
内部障がい作業療法学		作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 准教授・森 直 樹	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要		内部障がい有する対象者の臨床像の理解と作業療法評価、治療計画およびその実施方法を教授する。							
一般目標		内部障がい有する対象者の病態、作業療法(OT)評価、治療計画およびその実施方法を理解する。							
到達目標		内部障がい有する対象者に対する病態と経過を説明できる。 内部障がい有する対象者に対する OT 評価を説明できる。 内部障がい有する対象者に対して OT 支援方法を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		期末試験：知識、理解度、論理的思考に関して到達目標を達成しているか判断します。 最終成績：期末試験の成績により成績評価をします。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習な ど	担当	
1	5.12. 1 (金) 4	呼吸器疾患①	呼吸器疾患の病態、OT 評価について				スポット	佐藤 森	
2	5.12. 8 (金) 3	呼吸器疾患②	呼吸器疾患に対しての OT 支援につ いて				スポット		
3	5.12.15 (金) 3	循環器疾患①	循環器疾患の病態、OT 評価について						
4	5.12.22 (金) 3	循環器疾患②	循環器疾患の OT 支援について				スポット		
5	6. 1. 5 (金) 3	がん、各年代別の内部疾患①	がん、糖尿病、サルコペニア等の OT 評価、OT 支援について						
6	6. 1.19 (金) 3	各年代別の内部疾患②	小児期における内部疾患に対する OT 評価、OT 支援について						
7	後日連絡	吸引に関する講義・演習	吸引の目的、リスクなどの基礎知識				PT 学科と合同		
8		吸引に関する演習・実習	吸引の実際（実習）				PT 学科と合同		
教 科 書 参 考 図 書		教科書：小林隆司：身体障害作業療法学 2（内部障害）、羊土社、2019							
履 修 上 の 注 意		予習をしてから授業に臨んでください。 この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定 されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門科目です。欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりとて授業に臨むことを希望しま す。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 森：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担当教員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
認知機能作業療法学		作業療法学科 (専門科目)	准教授・外川 佑	選択	2	後期	2	非該当	否
授業概要		・認知機能障がいを持つ対象者の臨床像について教授する。 ・認知機能障がいに対する各種検査及び観察の技術とその結果の解釈について教授する。 ・認知機能障がいを持つ対象者への作業療法治療・訓練方法とその根拠について教授する。							
一般目標		・認知機能障がいを持つ対象者の病態、評価法を理解する。 ・認知機能障がいの治療原則および治療方法を理解する。 ・各症状を有する事例に対する介入方法の例を挙げられる。							
到達目標		・臨床症状に合わせた評価法を選択し、実施することができる。 ・評価結果から、対象者の障がい像を解釈・説明できる。 ・認知機能障がいを持つ対象者への作業療法治療・訓練方法を説明できる。 ・各症状を有する事例に対し、適切な治療計画を立案できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（60%）、講義中に実施する小テスト（40%）から判断する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28 (木) 3	注意機能障がいの評価	MARS 日本語版、脳損傷者の日常生活観察による注意評価スケール、CAT、ADL 評価			覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。 授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおくとう理解が進みやすいです。		外川	
2	5. 9. 28 (木) 4	注意機能障がいの作業療法	注意機能障がいへの介入の原則、直接刺激法、行動条件付け法、戦略置換法、全般的運動刺激、ADL 訓練						
3	5. 10. 5 (木) 3	半側空間無視の評価	Visual Extinction Test、CBS、BIT、ADL 評価						
4	5. 10. 5 (木) 4	半側空間無視の作業療法	視覚走査訓練、Spatiomotor cueing、プリズム順応、ADL 訓練						
5	5. 10. 12 (木) 3	認知の障がいの評価	VPTA、ADL 評価						
6	5. 10. 12 (木) 4	認知の障がいの作業療法	視覚失認、相貌失認、地誌的見当識障がいに対する対応と介入						
7	5. 10. 19 (木) 3	言語障がいの評価	SLTA、WAB、CADL						
8	5. 10. 19 (木) 4	言語障がいの作業療法	失語の回復過程と介入（仮名文字訓練法、MIT、PACE、AAC など）、失語症患者とのコミュニケーション						
9	5. 10. 26 (木) 3	記憶障がいの評価	ベントン視覚記憶検査、レイ・オストリッチの複雑図、三宅式記憶力検査法、RBMT、ハノイの塔						
10	5. 10. 26 (木) 4	記憶障がいの作業療法	誤りなし学習法、PQRST 法、頭文字記憶術、視覚イメージ法、ペグ法、運動コード化、代償手段、ADL 訓練						
11	5. 11. 2 (木) 3	行為・行動の障がいの評価	失行、運動維持困難、運動保続、本能的把握反応の評価、SPTA、ADL 評価						
12	5. 11. 2 (木) 4	行為・行動の障がいの作業療法	介入の原則とポイント、ADL 訓練						
13	5. 11. 6 (月) 1	遂行機能障がいの評価	BADS、WCST、Stroop テスト、誤の流暢性、ティンカートイテスト、ADL 評価						

14	5.11. 6 (月) 2	遂行機能障がい作業療法	自己教示訓練、問題解決訓練、環境の調整		
15	5.11.16 (木) 3	まとめ	認知機能障がい有する対象者に対する作業療法過程		
教科書		【教科書】 ・長崎重信 監修/鈴木孝治 編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 高次脳機能障害作業療法学. メジカルビュー社, 2016 【参考図書】 ・石合純夫：高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版社 ・平山和美：高次脳機能障害の理解と診察 中外医学社 ・大槻閑人、子鹿ゆずる：アンメット-ある脳外科医の日記- 講談社			
履修上の注意		特になし			
学生へのメッセージ		認知機能障がいに対する作業療法を習得すると、作業療法士としての臨床や研究の幅が広がります。不明な点については積極的に質問するなどし、作業療法の視点を広げてください。			
e-mail・研究室(連絡先)		外川 佑：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担当教員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高齢期作業療法学		作業療法学科 (専門科目)	准教授・外川 佑	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要		日本の高齢者の現状と特徴、高齢者に多い疾患の臨床像とその評価方法、高齢期の対象者に対する作業療法で用いられる理論について教授する。							
一般目標		・日本の高齢者の現状と特徴について理解する。 ・高齢者に多い疾患の臨床像とその評価方法を理解する。 ・高齢期の対象者に対する作業療法で用いられる理論の概要を理解する。							
到達目標		・日本の高齢者の現状と特徴について説明できる。 ・高齢者に多い疾患の臨床像を理解し、その評価を実施できる。 ・ICF、COPM を用いて対象者の障害像を解釈・説明することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（60％）、課題レポート（20％）、講義中の小テスト（20％）から判断する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など			担当		
1	5. 6. 22（木）3	高齢者の現状	高齢化の進展、超高齢社会の抱える問題、一般高齢者の状況、社会制度	覚えることが多いので、復習をしっかりと行ってください。			外川		
2	5. 6. 22（木）4	高齢者の特徴	高齢者の生理的、身体的、認知、心理的特徴						
3	5. 6. 29（木）3	高齢者に多い症候と疾患 1	意識障害、循環器疾患、呼吸器疾患、内分泌・栄養・代謝系疾患、嚥下機能障害						
4	5. 6. 29（木）4	高齢者に多い症候と疾患 2	神経系疾患、運動器疾患、精神系疾患、排尿・排便機能障害、睡眠障害、転倒・骨折、褥瘡、廃用症候群						
5	5. 7. 6（木）4	高齢者に多い症候と疾患 3	認知症の臨床像、作業療法評価とその解釈						
6	5. 7. 6（木）5	介護予防とその評価 高齢者に対する作業療法の実践課程	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム 作業療法評価プロセスと方法、課題の焦点化、目標設定、治療・援助計画、再評価						
7	5. 7. 13（木）4	高齢期の作業療法で用いられる理論	カナダ作業遂行モデル（COPM）、国際生活機能分類（ICF）	レポート提出					
8	5. 7. 13（木）5	事例検討	評価項目の選択、評価の解釈						
教 科 書 参 考 図 書		教科書： 松房利憲／新井健五 編集：高齢期作業療法学 第3版．医学書院，2016 大塚俊男，他：高齢者のための知的機能検査の手引き．ワールドプランニング，1991							
履 修 上 の 注 意		特になし							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		積極的に学習し、高齢期の対象者に対する作業療法の理解に努めてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		外川 佑：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高齢期作業療法学演習		作業療学科 (専門科目)	准教授・外川 佑	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		高齢期の対象者に対する作業療法治療・訓練方法とその根拠について教授する。							
一般目標		・病期や実施場所に応じた治療・援助内容を理解する。 ・現実見当識訓練、回想法、音楽、運動、手工芸を用いた治療・援助法を理解する。 ・認知症、虚弱高齢者、寝たきりの高齢者に対する治療・援助法を理解する。 ・介護予防における作業療法士の役割を理解する。							
到達目標		・病期や実施場所に応じた治療プログラムを立案できる。 ・現実見当識訓練、回想法、音楽、運動、手工芸を用いた介入を実践できる。 ・認知症、虚弱高齢者、寝たきりの高齢者に対する治療プログラムを立案できる。 ・介護予防における作業療法士の役割を説明できる。 ・事例をもとに、作業療法の一連の流れを説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（70%）、課題レポート（20%）、プレゼンテーション度(10%)から判断する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	5.11.30（木）3	高齢者に対する作業療法の 実践過程 1	作業療法プロセス、リスク管理、予後予測				プレゼンテ ーション	外川	
2	5.11.30（木）4	高齢者に対する作業療法の 実践過程 2	病期、実施場所に応じた治療・援助内容の 違い						
3	5.12. 7（木）3	高齢期の作業療法の実際 1	現実見当識訓練(R0)、回想法						
4	5.12. 7（木）4	高齢期の作業療法の実際 2	音楽とその治療的使用						
5	5.12.14（木）3	高齢期の作業療法の実際 3	運動とその治療的使用						
6	5.12.14（木）4	高齢期の作業療法の実際 4	手工芸とその治療的使用						
7	5.12.21（木）3	高齢期の作業療法の実際 5							
8	5.12.21（木）4	作業とその治療的応用	活動分析・作業分析と適応						
9	6. 1. 4（木）3	認知症に対する作業療法 1	認知症を有する対象者への介入方法						
10	6. 1. 4（木）4	認知症に対する作業療法 2							
11	6. 1.11（木）3	虚弱、寝たきり高齢者に対 する作業療法	虚弱高齢者、寝たきり高齢者への介入方法						
12	6. 1.11（木）4	介護予防	介護予防事業の実際と作業療法士の役割						
13	6. 1.18（木）3	事例検討 1	評価結果の解釈				レポート 提出		
14	6. 1.18（木）4	事例検討 2	作業療法プログラム立案						
15	6. 1.25（木）3	事例検討 3、まとめ	作業療法プログラム立案						
教 科 書 参 考 図 書		教科書： 松房利憲／新井健五 編集：高齢期作業療法学 第3版. 医学書院, 2016 大塚俊男, 他：高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング, 1991							
履 修 上 の 注 意		実技も含まれます。その際には動きやすい服装で出席してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		実技による体験、グループワークでの討論を通じて、高齢期の対象者に対する作業療法の考え方 やその手技を体得してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		外川 佑：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高 齢 期 作 業 療 法 学 実 習	作 業 療 法 学 科 (専 門 科 目)	准教授・外川 佑 助 教・井上 香	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	障がいの特性に応じた作業療法を実践するための技術を教授する。							
一般目標	・ 障害の特性に応じた評価項目を選択できる。 ・ 評価結果から障害構造を解釈できる。 ・ 障害の特性に応じた作業療法プログラムを立案することができる。 ・ 高齢者に対する作業療法で用いられる介入法を理解する。							
到達目標	・ 障害の特性に応じた評価項目を選択し、その理由を説明できる。 ・ 評価結果から障害構造を解釈・説明できる。 ・ 障害の特性に応じた作業療法プログラムを立案し、その根拠を説明することができる。 ・ 高齢者に対する作業療法で用いられる介入法を適切に実践できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	授業態度（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）により判断する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1～2	5. 6. 14（水）3-4	臨床に役立つ評価Ⅰ	身体機能に関する評価		各回におけるこれまでに学習した関連項目を復習するなどの準備をしておくことが望ましい。		外川 井上	
3～4	5. 6. 21（水）3-4	臨床に役立つ評価Ⅱ	精神機能に関する評価 社会性に関する評価					
5～6	5. 6. 28（水）3-4	治療計画立案演習Ⅰ	パーキンソン病患者の事例を用いて治療計画を立案する					
7～8	5. 6. 30（金）3-4	治療計画立案演習Ⅱ	廃用症候群の事例を用いて治療計画を立案する					
9～10	5. 7. 5（水）3-4	治療計画立案演習Ⅲ	認知症患者の事例を用いて治療計画を立案する					
11～12	5. 7. 7（金）3-4	臨床に役立つツール	生活行為向上マネジメント（演習）					
13～15	5. 7. 12（水）3-5	高齢者の理解	高齢者疑似体験による演習					
教 科 参 考 図 書		教科書 松房利憲／新井健五 編集：高齢期作業療法学 第3版. 医学書院, 2016 大塚俊男, 他：高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング, 1991 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル 66 生活行為向上マネジメント, 2018						
履 修 上 の 注 意		実習が中心となりますので、体調管理に気をつけてください。 この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		高齢期には複数の障がいが重複して生じるため、柔軟な対応が求められます。これまで学んだことを基に、総合的に考えてアプローチする方法を身につけてください。						
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		外川 佑：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
日常生活活動学	作業療法学科 (専門科目)	准 教 授・鈴木 由美 非常勤講師・笹 原 寛	必修	2	前期	2	非該当	否
授業概要	リハビリテーションにおける日常生活活動（ADL）の意味を理解し、対象者の生活の中に生かせる作業療法支援を教授する。							
一般目標	ADL の意義を理解し、対象者に適した ADL 指導を行うことができる。							
到達目標	1 ADL の概念を歴史的背景と ICF の視点から述べることができる。 2 評価法の種類を説明でき、実際に使用することができる。 3 起居動作、身の回り動作、生活関連動作を中心とした ADL を動作分析の視点から述べることができる。 4 ADL と IADL の違いが理解できる。 5 対象者の特性に適応した指導内容を考えることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	【成績】 定期試験 50% 授業内のプレゼンテーション 30% レポート内容 20% 計 100%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	5. 4. 10（月） 4	総論（ADL の概念・ICF との関係）		グループワークおよびプレゼンテーションの準備等が、講義時間内に終わらないときは、必ず学外時間を使って期限まで準備するようにしてください	鈴木			
2	5. 4. 17（月） 4	行為別 ADL 食事動作・整容動作	実技を行います					
3	5. 4. 24（月） 4	行為別 ADL 更衣動作 動作分析	グループワーク					
4	5. 5. 1（月） 4		プレゼンテーション					
5	5. 5. 8（月） 4	行為別 ADL 排泄動作・入浴動作	講義					
6	5. 5. 15（月） 4	日本人特有の生活様式	講義					
7	5. 5. 22（月） 4	IADL の理解 炊事・洗濯・掃除 外出・自己管理	グループワーク	プレゼンテーション 資料作成・提出				
8	5. 5. 29（月） 4		プレゼンテーション					
9	5. 6. 5（月） 4	BI/FIM の理解と解釈	講義					
10	5. 6. 12（月） 4	FIM の理解と解釈 事例検討	グループワーク					
11	5. 6. 19（月） 4		レポート提出					
12	後日連絡	ADL 指導の実際	実技中心に行います		笹原			
13								
14								
15		自助具作成体験	プレゼンテーション					
教 科 書 参 考 図 書	◆クリニカル作業療法シリーズ 日常生活の作業療法 中央法規出版株式会社 2014 年 ◆ADL とその周辺 評価・指導・介護の実際 第 3 版 医学書院							
履 修 上 の 注 意	動作分析は運動学の知識が不可欠ですので、運動学の復習をしっかりとっておいてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	対象者への ADL の指導は作業療法士の仕事の重要な柱となります。同時に ADL は身近なゆえにまだまだ研究されていない部分も多くあります。ここで教授するのは一つの視点ですので、そこから興味を広げていって欲しいと思います。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	鈴木由美：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域作業療法学概論		作業療法学科 (専門科目)	准教授・鈴木 由美	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要		地域リハビリテーション、地域作業療法の理念や役割、実践課程を教授する。具体的には、社会保障制度と地域ケアシステム、地域における多職種連携と作業療法士の役割、生活行為向上マネジメントの概要について教授する。							
一般目標		地域作業療法の概念を理解する。							
到達目標		1 地域リハビリテーション、地域作業療法の概念について説明できる 2 地域作業療法における、医学モデルと生活モデルの視点について説明できる。 3 医療保険と介護保険の関係が説明できる 4 地域作業療法を支える社会資源を説明できる。 5 地域作業療法における多職種連携・ネットワークについて説明できる。 6 地域包括ケアシステムや総合事業を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		【成績】 定期試験 50％・小テスト 50％							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 4. 21 (金) 2	地域を知る視点		講義				鈴木	
2	5. 4. 28 (金) 2	地域を知る		グループワーク					
3	5. 5. 12 (金) 2	地域を知る		プレゼンテーション		資料作成 提出			
4	5. 5. 19 (金) 2	社会保障制度(医療保険)		講義					
5	5. 5. 23 (火) 2	介護保険		講義		小テスト			
6	5. 6. 2 (金) 2	社会資源と活用 地域ケアシステム・総合事業		講義		小テスト			
7	5. 6. 16 (金) 2	模擬 地域作業療法体験		グループワーク 模擬患者さんの DVD を視聴し今できることを考えます。					
8	5. 6. 23 (金) 2	模擬 地域作業療法体験		プレゼンテーション		資料作成 提出			
教 科 書 参 考 図 書		教科書 重森健太・横井賀津志：地域リハビリテーション学第2版 羊土社 2019 年 教科書 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル 57 生活行為向上マネジメント改定第2版 2016 年							
履 修 上 の 注 意		教科書は3年時も同じものを使用する予定です。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		この科目は3年前期の地域作業療法学Ⅰおよび4年時の地域作業療法学Ⅱのベースとなるものなのでしっかりと学習するようにしてください。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		鈴木由美：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域作業療法学Ⅰ		作業療学科 (専門科目)	准教授・鈴木 由美	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	1 地域における人の生活・組織の存在・つながりを教授する。 2 地域の視点から保健、医療、福祉の連携の必要性を教授する。 3 対象（個々・地域全体）を支援する社会資源と多職種等との連携について教授する。 4 地域評価の方法について教授する。 5 地域における作業療法士の役割を教授する。								
一般目標	1 地域における人の生活・組織の存在・つながりを理解する。 2 地域の視点から保健、医療、福祉の連携の必要性を理解する。 3 対象（個々・地域全体）を支援する社会資源と多職種等との連携について理解する。 4 地域評価の方法について理解する。 5 地域における作業療法士の役割を考察する。								
到達目標	1 地域の人々の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性を捉える地域評価の方法について考える 2 地域リハビリテーションの概念について説明できる 3 地域リハビリテーションにおける、医学モデルと生活モデルの視点について説明できる。 4 地域作業療法を支える社会資源とその活用方法について説明できる。 5 地域作業療法における多職種連携・ネットワークについて説明できる。 6 地域包括ケアシステムや総合事業と作業療法の関係を述べるができる。 7 実践の場に応じた作業療法について説明・模擬実践できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	地域作業療法は、医学モデルと生活モデルの違いを理解したうえで、生活の場における OT としての専門的役割を理解することとなる。 【成績】定期試験 50%・演習プレゼンテーション（資料を含む）50%・計 100%								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1	5. 4. 6 (木) 2	地域リハビリテーションとは (定義, 歴史)	講義		鈴木				
2	5. 4. 20 (木) 1	介護保険制度	講義						
3	5. 4. 20 (木) 2	地域作業療法を実践している場 を調査する.	グループワーク	プレゼンテーション 資料提出					
4	5. 4. 27 (木) 1		プレゼンテーション						
5	5. 4. 27 (木) 2	生活行為向上マネジメント	講義						
6	5. 5. 11 (木) 1	対象者の視点で学内環境調査を 体験する.	グループワーク	プレゼンテーション 資料提出					
7	5. 5. 11 (木) 2								
8	5. 5. 18 (木) 1		プレゼンテーション						
9	5. 5. 18 (木) 2								
10	5. 5. 25 (木) 1	集団アプローチ・評価と支援	講義						
11	5. 5. 25 (木) 2	模擬事例を用いて地域における アプローチを検討する	グループワーク						
12	5. 6. 1 (木) 1		プレゼンテーション	実施計画書の提出					
13	5. 6. 1 (木) 2								
14	5. 6. 8 (木) 2	地域包括ケア・地域における連携	講義						
15	後日連絡	精神領域における地域支援	講義		外来 講師				
教 科 書 参 考 図 書	教科書 重森健太・横井賀津志：地域リハビリテーション学第2版 羊土社 2019年 教科書 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント改定第2版 2016年								
履 修 上 の 注 意	グループワークでは、プレゼンテーション前に資料の提出をしてください。また、グループワークのプレゼンテーションの内容も試験範囲としますので、責任を持って資料作りをするとともに、他のグループの発表もしっかりと聞くようにしてください。 同時期に始まる臨床実習Ⅱもこの科目に関連しますので、興味を持って取り組んでください。 この授業科目は、総合実習Ⅰにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	地域作業療法学Ⅰは社会資源や法的な部分など、かなり知らなければならないことが多い科目です。講義で話したものを丸暗記するよりは、自ら考え、調べて、学習した方がより知識が深まるという考え方からグループ学習を多くしています。しっかりと取り組んでください。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	鈴木由美：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域作業療法学Ⅱ		作業療学科 (専門科目)	准教授 鈴木 由美 非常勤講師 川田 智尋	必修	4	前期	2	非該当	否
授業概要	1 地域における作業療法実践のための知識を教授する。 2 医学モデルと生活モデルの違いを理解し、地域活動における作業療法のあり方を教授する。 3 今後の地域リハビリテーション活動の課題を教授する。								
一般目標	1 地域における作業療法実践のための知識を整理する。 2 医学モデルと生活モデルの違いを理解し、地域活動における作業療法のあり方を理解する。 3 今後の地域リハビリテーション活動の課題を整理する。								
到達目標	1 地域の概念を整理できる。 2 地域評価の枠組みを理解できる。 3 地域におけるリハビリテーション課題を抽出することができる。 4 地域における作業療法の具体的な支援方法を述べるができる。 5 地域リハビリテーションにおける訪問リハビリテーションの位置づけを理解できる。 6 訪問リハビリテーションにおける作業療法士の関わりを理解することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	地域作業療法Ⅰからさらに深い考察を求める授業となるので、より主体的な行動を評価します。 【成績】 授業内でのプレゼンテーション 50% レポート提出 50% 計 100%								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1 2 3 4 5 6 7 8	5. 4. 10 (月) 2 5. 4. 10 (月) 3 5. 4. 10 (月) 4	3 年次の地域作業療法学Ⅰで学修した、地域における作業療法支援の基本的知識を整理したうえで、更なる効果的な支援のための知識と具体的な手段を、演習を通して学ぶ。	グループワーク 障がい者(視覚障がい者・身体障がい者)の視点で地域社会の環境を調査する。 調査項目・調査方法などグループで企画し実際の調査に臨む。	学外調査	鈴木				
	5. 4. 11 (火) 2 5. 4. 11 (火) 3 5. 4. 11 (火) 4		中間報告 プレゼンテーション	学外調査	鈴木				
	5. 4. 12 (水) 3 5. 4. 12 (水) 4		プレゼンテーション	プレゼンテーション資料作成・提出(締め切り 11 時)	鈴木				
9 10 11	5. 4. 20 (木) 1 5. 4. 20 (木) 2 5. 4. 20 (木) 3	1. 地域リハビリテーションにおける訪問リハビリテーションの位置づけ及び法的根拠 2. 訪問リハビリテーションの対象と、その評価について	実際に地域リハビリテーションに関わっている外来講師からの講義 ・訪問作業療法 身体障がい	レポート提出	鈴木 川田				
12 13 14 15	5. 4. 21 (金) 1 5. 4. 21 (金) 2 5. 4. 21 (金) 3 5. 4. 21 (金) 4	3. 訪問リハビリテーションにおいて関わる多職種の理解と連携方法 4. 生活や環境を踏まえた訪問作業療法の実際 5. 地域で求められる作業療法士の役割と課題	・訪問作業療法 精神障がい ・ケアマネージャーの職務						
教 科 書 参 考 図 書		参考図書について、随時紹介します。							
履 修 上 の 注 意		集中講義の形式で行ないます。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		4 月中に集中講義を実施します。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		鈴木由美：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
福祉用具・住環境整備学		作業療法学科 (専門科目)	准教授・森 直樹 准教授・鈴木 由美	選択	2	後期	2	非該当	否
授業概要		福祉用具導入の適応と評価、および住環境整備の方法とその効果について教授する。							
一般目標		福祉用具導入の適応と評価、および住環境整備の方法とその効果について理解する。							
到達目標		①ICF における福祉用具と住環境整備の位置付けを説明できる。 ②片麻痺や四肢麻痺、骨・関節障害等の代表的な障がいに対する福祉用具や住環境整備について述べる ことができる。 ③ADL の活動項目ごとに適用される福祉用具や住環境整備について述べる ことができる。 ④福祉用具導入や住環境整備の根拠となるシステムについて説明することができる。また、導入の際の他 職種との連携について述べる ことができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		授業内プレゼンテーション 60% 課題レポート 40% 計 100%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 27 (水) 3	総論 (リハビリテーション、ICF と福祉用具・住環境整備との関連、定義・歴史)		講義				鈴木	
2	5. 9. 27 (水) 4	移動・移乗動作に関連する福祉用具		講義					
3	5. 10. 4 (水) 3	セルフケア (入浴、更衣、整容、排泄、食事) における福祉用具の種類と適応 コミュニケーションに特化した福祉用具 (視線入力装置・重度障がい者用意思伝達装置の体験・演習)		グループワーク		プレゼンテーション 資料作成・提出			
4	5. 10. 4 (水) 4								
5	5. 10. 11 (水) 3								
6	5. 10. 11 (水) 4								
7	5. 10. 18 (水) 3	福祉用具適応疾患		講義					
8	5. 10. 25 (水) 3	福祉用具と住環境整備		講義		プレゼンテーション 資料作成・提出			
9	5. 10. 25 (水) 4	福祉用具と住環境整備 演習		グループワーク					
10	5. 11. 1 (水) 3			プレゼンテーション					
11	後日連絡	車椅子・座位保持装置の基礎知識、評価、支援		講義・演習				スポット 菅原 (森)	
12									
13	9 月～10 月の 最終週末を予定	障害観、生活モデル、ICT 支援の導入と適応、評価、支援		講義・演習				スポット 坂井 (森)	
14									
15									
教 参 考 文 献		特に指定しません							
履 修 上 の 注 意		かなりの時間をグループワークが占めます。気を抜かないでしっかりと取り組んでください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		福祉用具は、その種類や用途は多岐にわたります。また、1 度開発されたものでもモデルチェンジが頻回になされたり、市場での売れ行きが悪いと販売停止になったりします。対象者に本当に必要な機器は何か見定める視点を持って欲しいと思います。 また、福祉用具を用いての社会参加の意味合いを考える機会にしたいと思います。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		森 : 研究室 34 nmori@yachts.ac.jp 鈴木 : 研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
職業関連活動学		作業療法学科 (専門科目)	講師・佐々木 学	選択	4	後期	1	非該当	可
授業概要		健常者や障害者などの対象者に対して就労支援や復職支援を行う場合に必要となる各種法制度や支援組織、学術団体などの動向や、臨床での対応事例などについて紹介する。 授業後半では、施設見学などを行い、健常者や障害者に対する就労支援が幅広く行われていることを確認する。							
一般目標		・我が国における一般就労や障害者就労に関連した法制度について理解できる ・身体障害者などの支援を理解できる ・精神障害者・発達障害者・高次脳機能障害等の支援を理解できる ・高齢者の就労支援を理解できる ・各種の就労支援施設を見学し、その機能を理解できる							
到達目標		・我が国における一般就労や障害者就労に関連した法制度について対象者や家族に説明できる ・身体障害者・精神障害者・発達障害者・高次脳機能障害等などの支援の相違を理解できる ・各種の就労支援施設を見学し、対象者に施設利用を考慮した介入アプローチを考察できる							
成績評価方針 評価方法 および基準		レポート課題「あなたが総合実習での担当症例に対し、就労支援するとしたらどのような介入が可能があるかを考察しなさい」により判断する。 成績判定は、F判定：59 以下 臨床家を志す学生として不十分であると思われる D判定：60-69 講義内容をおおまかには理解している C判定：70-79 臨床に必要な知識の習得や応用ができると総合的に判断される B判定：80-89 大学生として発展的な意見が述べられている A判定：100-90 秀でた独創的知見が述べられている							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1 2 3 4 5 6 7 8	5.10. 5 (木) 1 5.10. 5 (木) 2 5.10.12 (木) 1 5.10.12 (木) 2 5.10.19 (木) 2 5.10.26 (木) 2 5.11. 2 (木) 2 5.11. 9 (木) 2	法制度(労働法、総合福祉法、職業分類)等 一般人の支援 身体障害者(身・内・視・聴)等の支援 精神・発達・高次脳機能障害等の支援 高齢者の支援 見学1) ハローワーク山形 見学2) ポリテクセンター山形 見学3) 障害者職業センター		学内授業は講義聴講、動画視聴などによる。 施設見学は、講義時間以外に移動時間が加算されるため、別日程となることがある。		各団体の Web、 就労関連や年金制度を解説した YouTube 視聴を推奨		佐々木	
教 科 書 参 考 図 書		教科書は指定しない。 Web: 厚生労働省>政策について>分野別の政策一覧>雇用・労働>雇用, リンク参照 Web: 高齢・障害・求職者雇用支援機構							
履 修 上 の 注 意		特になし							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		作業療法は就労支援・復職支援の一部を担うだけであることを理解するようにしてほしい							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐々木学: 研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
作業療法研究法	作業療法学科 (専門科目)	教授・藤井 浩美	選択	3	前期	1	非該当	可
授業概要	作業療法(Occupational Therapy: OT)に関して生じた疑問に対し、解決するための考え方と方法論を学ぶ							
一般目標	OT 研究を展開する上で必要な考え方と方法論を理解する。							
到達目標	OT 研究を展開する上で必要な考え方と方法論を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	4 回のレポートで評価します。レポートは、理解度で判断します。骨格筋レポート提出は、下記の通りです。講義開始までに提出することを必須条件とします。提出期限を過ぎた場合は、0 点となります。レポートは、講義内容の理解度で判断します。基準は、理解度に応じて○A、B、C、D を合格とし F (59 点以下) を不合格とします。 到達目標に達したか否かの判定は、4 回のレポートの各々が 60%以上とします。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 4. 20 (木) 4	研究のすすめ方 1	作業療法研究とは何か、具体的な研究手続きが説明できる。				藤井	
2	5. 5. 11 (木) 4	研究論文と学会発表	研究成果の公表の意義と方法が理解できる。			課題	藤井	
3	5. 5. 18 (木) 4	研究結果の評価と統計 1	研究結果の信頼性を高めるための考え方が説明できる。				藤井	
4	5. 5. 25 (木) 4	研究結果の評価と統計 2	統計学的仮説検定と統計学的推定が理解できる。			課題	藤井	
5	5. 6. 1 (木) 4	数量的捉え方	如何に研究で用いるかが説明できる。				スポット	
6	5. 6. 8 (木) 4	研究のすすめ方 2	仮説検証の正否を過去の研究から理解する。			課題	スポット	
7	5. 6. 15 (木) 4	具体的研究例 1	作業療法関連領域の研究が理解できる				スポット	
8	5. 6. 22 (木) 4	具体的研究例 2	作業療法関連領域の研究が理解できる。			課題	藤井	
教 科 書 参 考 図 書	参考書：渡部欣忍 著「あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ！」(南江堂) 2014. 市原清志：バイオサイエンスの統計学. 南江堂. 東京, 1993. 鎌倉矩子、他：作業療法研究法入門. 三輪書店. 東京, 1997. 金子翼、他：PT・OTのための統計学入門. 三輪書店. 2000.							
履 修 上 の 注 意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	スポット非常勤担当の部分は、予定を調整してご連絡致します。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	藤井浩美：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp							

[illegible]

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
見学実習特論		作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要		見学実習特論は必修科目「見学実習」の前後で実施されるものであり、見学実習前には学生が円滑に実習に適応できるように指導するとともに、必要とされる知識・技能の確認を行う。また、見学実習後は実習の成果の確認を行う。							
一般目標		<見学実習前> 見学実習に向けて準備を行う。 <見学実習後> 見学実習を振り返るとともに、自己の達成度、課題など見学実習全体を総括できる。							
到達目標		<見学実習前> ・職業人としての身だしなみ、態度、情報管理等について確認し準備ができる ・当該実習地について必要な知識・能力等について見学実習シートを用いて確認し準備ができる ・講義、グループワーク等を通して臨床推論の知識を深め、考え方について述べることができる <見学実習後> ・見学実習後グループ報告会で発表することができる。 ・見学実習終了後、教員等との指導において見学実習シートを用いて振り返りができ、今後の自己改善目標を考えることができる ・臨床推論の一部を経験し、事例の観察、面接、検査・測定、作業分析などを通して潜在する課題に気づき、自身の思考過程への気づきや理解を深めることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		(見学実習前)・事前学習 (グループワーク) (見学実習後)・グループ発表会等 A 100－90 点、十分な達成であると認められる B 89－80 点、達成した項目が 2/3 程度である C 79－70 点、達成した項目が 1/3 程度である D 69－60 点、達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、達成した項目がなく、実習前の準備、実習後の成果が得られなかった それぞれを評定し、総合的に評価します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容 学習方法		授業外学習 など		担当
1 2 3 4 5	<見学実習前> 5.12. 4 (月) 3 5.12.11 (月) 3 5.12.11 (月) ~ 6. 1. 9 (火) 6. 1.15 (月) 3	<見学実習前> (全 体) オリエンテーションⅠ (全 体) 臨床推論Ⅰ (領域別) 臨床推論Ⅱ (全 体) オリエンテーションⅡ			<見学実習前> 見学実習特論概要、臨床実習の手引、臨床実習指導報告書関連書類を説明する。見学実習シートを用いて職業人としての身だしなみ、態度、情報管理等について学習する。 臨床推論の知識を深める。実習領域毎に視聴覚教材等を用いて模擬事例のメタ分析を行い、自身の思考過程への気づきや理解を深める				全教員
6 7 8	6. 2.20 (火) 2 6. 2.21 (水) 1 6. 2.21 (水) 2	<見学実習後> (全 体) オリエンテーション (領域別) 見学実習成果報告			<見学実習後> 実習の達成度について見学実習シートを用いて確認する。実習概要を個別報告、自己改善目標等について担当教員に報告し個別指導を受ける。				

教 科 書 参 考 図 書	臨床実習指導の手引、臨床実習指導報告書関連書類、臨床実習経験自己記録表
履 修 上 の 注 意	・「臨床実習指導の手引」、「臨床実習指導報告書関連書類」を精読すること ・実習地での指導や生活については、臨床実習説明会で指導者から指導を受けること。 ・当該実習地の事前学習（施設情報の機能、役割、実習ノートの確認、閲覧等）を行うこと。 ・見学実習にあたり担当教員より指導（自己紹介用紙も含む）や講義を受けること。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	職業人になるための実践的な貴重な場です。積極的に学んでください。学生は、臨床実習協力病院の厚意で維持されていることを理解し、「わきまえた行動」をとらねばならない。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	科目担当者 森直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅰ 特論	作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤寿晃 教 授 藤井浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤充洋 講 師 佐々木学 助 教 井上 香 助 教 川勝祐貴 助 教 高畑未樹	必修	3	後期	1	非該当	否
授業概要	総合実習Ⅰ 特論は、必修科目「総合実習Ⅰ」の前後で実施されるものであり、学生が総合実習へ円滑に 適応できるように指導するものである。実習地の特徴や必要とされる技能の確認、総合実習Ⅰに必要な能 力確認や、実習後の能力確認が行われる。							
一般目標 (GIO)	(総合実習Ⅰ 前) 総合実習Ⅰに向けた実習地の理念を理解し、実習地の特性に向けた準備を行う (総合実習Ⅰ 後) 自己の能力評価を行い、次の取り組みに向けたゴール設定を行う							
到達目標 (SBO)	(総合実習Ⅰ 前) 実習地の基本理念、特性を述べることができる 実習地での主な疾患と治療理論の概要を述べることができる 実習地で必要な能力を確認し、自己改善目標を考えることができる 前年度実習生が経験した反省点をもとに、自分の行動の一助とすることができる (総合実習Ⅰ 後) 臨床実習報告会で発表することができる 実習終了での能力を確認し、次の目標を考えることができる 反省会や個別面接を通じて教員からアドバイスを受け、次期実習への自己改善目標を考えることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1. 事前学習結果, 2. OSCE 結果(2 回), 3. 発表会(プレゼン能力のみ), 4. 反省会, 5. 個別指導などを評定し, A 100-90 点、 十分な達成であると認められる B 89-80 点、 達成した項目が 2/3 程度である C 79-70 点、 達成した項目が 1/3 程度である D 69-60 点、 達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、 実習到達度や安全を配慮した行動が著しく劣り、次実習への取り組みが著しく困難							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担 当	
1 2 3 4 5 6 7 8	5. 7. 3 (月) 1 5. 8. 7 (月) 1 5. 8. 7 (月) 2 5. 11. 20 (月) 1 5. 11. 20 (月) 2 5. 11. 22 (水) 3 5. 11. 22 (水) 4 5. 11. 22 (水) 5	(総合実習前) (全体)オリエンテーション (領域)学習会, 実習前能力評価説明 (領域)実習前能力評価 (総合実習後) (全体)オリエンテーション、提出物回収 (全体)総合実習Ⅰ 発表会 1 (全体)総合実習Ⅰ 発表会 2 (全体)反省会 (領域)個別指導	(総合実習前) 基本事項, 感染予防, 交通手段ほか 実習地対策、前年度日誌・レポート等 確認 実習地特性を考慮した実技試験 (総合実習後) 症例報告書の内容を発表会で説明 (同上) 実習後の能力向上の程度を確認する 実習概要を個別報告、自己改善目標 担当教員から総合実習Ⅰ での状況を 踏まえた個別指導を受ける			手 引 き 等 持 参 動 画 参 照 レ ポ ー ト 提 出 (領域別レポ ー ト形式) 録画	全 教 員	
教 科 書 参 考 図 書		「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を読むこと						
履 修 上 の 注 意		・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導をうけること(別途連絡)。 ・臨床実習での実習地選択は学生の成績、授業態度などを総合的に考慮して決定される。 ・実習終了後から総合実習Ⅱまでの期間が短いので、総合実習Ⅱの準備を総合実習Ⅰ 開始前に行ってお くことが望ましい。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		自己への客観的態度から実践することが望まれる						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 佐々木学: 研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅱ特論		作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	3	後期	1	非該当	否
授業概要		総合実習Ⅱ特論は、必修科目「総合実習Ⅱ」の前後で実施されるものであり、学生が総合実習へ円滑に適応できるように指導するものである。実習地の特徴や必要とされる技能の確認、総合実習Ⅱに必要な能力確認や、実習後の能力確認が行われる。							
一般目標 (GIO)		(総合実習Ⅱ前) 総合実習Ⅱに向けた実習地の理念を理解し、実習地の特性に向けた準備を行う (総合実習Ⅱ後) 自己の能力評価を行い、次の取り組みに向けたゴール設定を行う							
到達目標 (SB0)		(総合実習Ⅱ前) 実習地の基本理念、特性を述べることができる 実習地での主な疾患と治療理論の概要を述べることができる 実習地で必要な能力を確認し、自己改善目標を考えることができる 前年度実習生が経験した反省点をもとに、自分の行動の一助とすることができる (総合実習Ⅱ後) 臨床実習報告会で発表することができる 実習終了での能力を確認し、次の目標を考えることができる 反省会や個別面接を通じて教員からアドバイスを受け、次期実習への自己改善目標を考えることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		1. 事前学習結果, 2. 発表会(プレゼン能力のみ), 3. 反省会, 4. 個別指導などを評定し, A 100-90 点、 十分な達成であると認められる B 89-80 点、 達成した項目が 2/3 程度である C 79-70 点、 達成した項目が 1/3 程度である D 69-60 点、 達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、 実習到達度や安全を配慮した行動が著しく劣り、次実習への取り組みが著しく困難							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習 など	担当	
1 2 3 4 5 6 7 8	(総合実習前) 5. 11. 22(水) 2 5. 11. 27(月) ~ 5. 12. 1(金) (総合実習後) 6. 2. 5(月) 2 6. 2. 7(水) 2 6. 2. 7(水) 3 6. 2. 7(水) 4 6. 2. 8(木) 2	(総合実習前) (全体)オリエンテーション (領域)学習会 (領域)学習会 (総合実習後) (全体)オリエンテーション・提出物回収 (全体)総合実習Ⅱ発表会 (全体)総合実習Ⅱ発表会 (全体)総合実習Ⅱ発表会 反省会・個別指導			(総合実習前) 基本事項, 感染予防, 交通手段ほか 実習地対策、前年度日誌・レポート等 確認 実習地特性を考慮した実技試験 (総合実習後) 症例報告書の内容を発表会で説明 (同上) 実習後の能力向上の程度を確認する 実習概要を個別報告、自己改善目標 担当教員から総合実習Ⅱでの状況を 踏まえた個別指導を受ける		手引き等持参 動画参照レ ポート提出 (領域別レポ ート形式)	全 教 員	
教 科 書 参 考 図 書		「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を読むこと							
履 修 上 の 注 意		・ 実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導をうけること(別途連絡)。 ・ 臨床実習での実習地選択は学生の成績、授業態度などを総合的に考慮して決定される。 ・ 総合実習Ⅰ終了後からの期間がほとんどないので、夏休み等を利用し十分学習しておくこと。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		自己への客観的態度から実践することが望まれる							
e-mail・研究室 (連絡先)		学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 鈴木由美: 研究室 30 yusuzuki@vachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅲ特論	作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	4	前期	1	非該当	否
授業概要	総合実習Ⅲ特論では、必修科目「総合実習Ⅲ」の前後で実施されるものであり、総合実習前には学生が円滑に実習に適応できるように指導とともに、必要とされる知識・技能の確認を行う。また、総合実習後は実習の成果の確認を行う。							
一般目標	(総合実習Ⅲ前) 総合実習Ⅲに向けた準備を行う。 (総合実習Ⅲ後) 自己能力評価を行い、改善点の整理を行う。							
到達目標	(総合実習Ⅲ前) ・実習地での必要な知識・能力を確認し、自己改善目標を述べることができる。 ・グループワークで、総合実習Ⅰ・Ⅱでの事例を通してディスカッションができる。 (総合実習Ⅲ後) ・総合実習報告会で発表することができる。 ・実習終了後、教員等との個別面接において実習の振り返りができ今後の自己改善目標を考えることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	(総合実習Ⅲ前)・事前学習 (グループワーク) (総合実習Ⅲ後)・発表会等 それぞれを評定し、総合的に評価します。 A 100－90 点、十分な達成であると認められる B 89－80 点、達成した項目が 2/3 程度である C 79－70 点、達成した項目が 1/3 程度である D 69－60 点、達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、達成した項目がなく、実習前の準備、実習後の成果が得られなかった							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など		担当		
1	5.4.13 (木) 2	総合実習Ⅲ特論オリエンテーション グループワーク (1)				千葉		
2	5.4.17 (月) 2	グループワーク (2)				千葉		
3	5.4.24 (月) 2	グループワーク (3)				千葉		
4	5.4.27 (木) 2	グループワーク (4) 総合実習Ⅲ前オリエンテーション				千葉		
5	5.7.3 (月) 2	総合実習Ⅲ後オリエンテーション				千葉		
6	5.7.5 (水) 3	総合実習Ⅲ発表会				担当教員全員		
7	5.7.5 (水) 4							
8	5.7.5 (水) 5							
		個別面談				実習訪問教員		
教 科 書 参 考 図 書	学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を読むこと。							
履 修 上 の 注 意	・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導を受けること。 ・総合実習Ⅰ・Ⅱの実習経験をもとにグループでの事例検討をより具体的に学びます。総合実習で担当した事例について症例レポート、症例ノート等を見直しておくように。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	総合実習Ⅰ・Ⅱで行った事前学習は自己学習で行うことが望ましい							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 千葉登：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
見学実習	作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	作業療法における専門基礎科目を概ね学習した段階で、作業療法の臨床実習施設の目的や役割、その中における作業療法士の役割や業務内容および対象者に行っている作業療法について学ぶ							
一般目標	- 臨床実習施設の目的や役割、組織等について説明できる。 - 臨床実習施設の中での作業療法士の役割や業務内容について説明できる。 - 作業療法に関する基礎知識の理解を深める。 - 臨床実習指導者の並列的な要因の推測、階層的な要因の推測の考えを学び、実際の OT 評価・OT 実践を見学し理解を深める。また、それらについて、記録を通して明瞭化し説明ができる。 - 他職種とチームアプローチを行なうための組織全体の理解や、医療人としての倫理観を養うことができる。							
到達目標	- 職業人としての望ましい態度と行動をとることができる。 - 対象者・利用者や職員等と適切なコミュニケーションがとれる。 - 実習施設で観察・見学した対象者・利用者の作業療法を通して、作業療法の治療行為を理解する。 - 臨床実習を通して臨床推論の一部を体験し理解を深める - 情報管理も含めた適切な記録、報告ができる。 - 施設、リハビリテーション部門、作業療法部門の機能・役割や管理・運営について理解できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」に記載されてあるので、必ず読むこと。 臨床実習指導者の評価、成果発表会により、成績判定を行う。 A：100-90 点、B：89-80 点、C：79-70 点、D：69-60 点、F：59 以下							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	6. 2. 13 (火) ～ 6. 2. 19 (月)	具体的実習目標 1) 臨床的専門領域で作業療法を見学・経験をすること。 ＜臨床専門領域の例＞ 身体、精神、高齢期、小児期等 2) 実習施設の目的や役割、組織等を学習する。 3) 実習施設の中での作業療法士の役割や業務内容を学習する。 4) 実習施設で観察・見学した対象者・利用者の作業療法を通して、作業療法の治療行為を理解する。 5) 作業療法実践に必要な管理業務を理解できること。 6) 他職種とチームアプローチができるように組織理解を深めること。	各臨床実習施設によって異なるので、各臨床実習指導者の指示に従うこと	各臨床実習施設によって異なるので、各臨床実習指導者の指示に従うこと	担当教員 全員			
教科書 参 考 図 書	学生個人が各自の能力に応じて必要と思われる教科書、参考図書を準備すること。							
履 修 上 の 注 意	「臨床実習指導の手引き」、「臨床実習指導報告書関連書類」をよく読んで実習に臨んでください。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	作業療法士を志す学生として初めての見学実習となります。社会人としてのルールをしっかりと守って、積極的に臨床実習に臨んで下さい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	科目担当者 森 直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習 I	作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	3	後期	8	該当	否
実習概要	本実習で学生が行う具体的内容は、対象者への初回面接から評価、治療介入方針、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、実践を行う。 実習領域としては、身体機能系、小児期、老年期、精神機能系、地域領域系などの領域から成り立ち、1名の学生は実習期間中にわたって1つの実習地で実習を行う。							
一般目標 (GIO)	実習地において、対象者に対する評価から作業療法実施計画立案、リーズニングを含む一連の作業療法介入の概要を理解・実践の一部を経験する。							
到達目標 (SBO)	1) 作業療法実施計画を用いて症例の説明をうける 2) 対象者との面接・観察を通じて、またカルテ及び他部門から必要な情報を収集することができる。 3) 種々な対象者に対して基本的な検査・測定法を選択して、実施することができる。 4) 検査・測定結果を正しく記録し、そこから得られた情報を分析することができる。 5) 評価結果を整理・統合し、作業療法の実施に必要な対象者の問題点や能力をまとめることができる。 6) 臨床課程(リーズニング)について理解・実践すること 7) 学内で習得した知識・実技能を実習で活用できる。 8) 対象者や他職員と適切な関係を結ぶことができ、医療従事者としての作業療法士の役割を理解できる。 9) 臨床での倫理的配慮や日本作業療法士協会倫理綱領について理解できる。 10) 対象者の病状に応じて対応できる(患者の体調不良時に介入を変更・中止する場面を経験・遂行)。 11) 管理業務の一部を見学し、その重要性を理解できる。 12) 臨床実習指導者の診療記録などを参照し、そのレベルに到達する努力を行うことができる 13) カンファレンス(部門内、病棟内など)を見学し、多職種連携について理解できる。 14) 施設見学を行い、施設の機能について理解できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 お よ び 基 準	(臨床実習中の学生へのフィードバック) ・毎日の中で、臨床実習指導者が実習生に対してフィードバックを行う。 ・臨床実習指導者が「臨床実習指導報告書」によって評価を行う。 ・実習中盤で実習指導者と学生によって中間評価が行われるので、誤解などがあれば適切に説明し、指導者と改善についてのアドバイスを得たりするなど、実習中の自己改善に役立ててほしい。 ・最終評価後に実習指導者と実習生間で実習についての意見交換を行い、大学に提出する。 (実習終了後の最終成績) ・1. 臨床実習指導報告書、2. 実習日誌、3. 症例日誌、4. 症例報告書(作業療法実施計画)、5. 訪問時の状況などを以下の基準で総合的に判断し、成績が決められる。 A 100-90 点、安全配慮、対象者に必要な評価、リーズニング、実施計画作成、記録を十分に実習 B 89-80 点、達成した項目が 2/3 程度である C 79-70 点、達成した項目が 1/3 程度である D 69-60 点、達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、行動が著しく劣り、リスク管理できない							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
	5. 9. 25 (月) ～ 5. 11. 17 (金)	臨床実習 ・初期面接、評価、介入 方針、問題点抽出、プ ログラム立案、実施	・県内外の医療機関の協力のもと臨床実習が行われる。		・病院図書館の活用 の可否を実習地に確 認すること。 ・大学図書館も長期 貸出を行うので確認 すること。 ・実習中は実習指導 者から指導を仰ぐこ とが望ましい ・訪問教員に相談す るべきである		・実習地では、 臨床実習指導者 が指導を行う。 ・全教員(訪問 や電話、ZOOM な どで、実習経過 の把握やアドバ イスを行う	
教 科 書 参 考 図 書	学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習のてびき」を読むこと。							

履 修 上 の 注 意	・先修条件指定科目であり、「あらかじめ修得しておかなければならない科目」を指定しているので、学生便覧にて確認すること。 ・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導を受けること。 ・実習前後の準備・実技能力確認は、第3学年必修科目「総合実習Ⅰ特論」にてなされる。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	学生は、臨床実習協力病院の厚意で成り立っていることを理解し、社会人として「わきまえた行動」をとらねばならない。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 佐々木学：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅱ	作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	3	後期	8	非該当	否
実習概要	本実習で学生が行う具体的内容は、対象者への初回面接から評価、治療介入方針、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、実践を行う。 実習領域としては、身体機能系、小児期、老年期、精神機能系、地域領域系などの領域から成り立ち、1名の学生は実習期間中にわたって1つの実習地で実習を行う。							
一般目標 (GIO)	実習地において、対象者に対する評価から作業療法実施計画立案、リーズニングを含む一連の作業療法介入の概要を理解・実践の一部を経験する。							
到達目標 (SBO)	1) 作業療法実施計画を用いて症例の説明をうける 2) 対象者との面接・観察を通じて、またカルテ及び他部門から必要な情報を収集することができる。 3) 種々な対象者に対して基本的な検査・測定法を選択して、実施することができる。 4) 検査・測定結果を正しく記録し、そこから得られた情報を分析することができる。 5) 評価結果を整理・統合し、作業療法の実施に必要な対象者の問題点や能力をまとめることができる。 6) 臨床課程(リーズニング)について理解・実践すること 7) 学内で習得した知識・実技能力を実習で活用できる。 8) 対象者や他職員と適切な関係を結ぶことができ、医療従事者としての作業療法士の役割を理解できる。 9) 臨床での倫理的配慮や日本作業療法士協会倫理綱領について理解できる。 10) 対象者の病状に応じて対応できる(患者の体調不良時に介入を変更・中止する場面を経験・遂行)。 11) 管理業務の一部を見学し、その重要性を理解できる。 12) 臨床実習指導者の診療記録などを参照し、そのレベルに到達する努力を行うことができる 13) カンファレンス(部門内、病棟内など)を見学し、多職種連携について理解できる。 14) 施設見学を行い、施設の機能について理解できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 お よ び 基 準	(臨床実習中の学生へのフィードバック) ・毎日の中で、臨床実習指導者が実習生に対してフィードバックを行う。 ・臨床実習指導者が「臨床実習指導報告書」によって評価を行う。 ・実習中盤で実習指導者と学生によって中間評価が行われるので、誤解などがあれば適切に説明し、指導者と改善についてのアドバイスを得たりするなど、実習中の自己改善に役立ててほしい。 ・最終評価後に実習指導者と実習生間で実習についての意見交換を行い、大学に提出する。 (実習終了後の最終成績) ・1. 臨床実習指導報告書、2. 実習日誌、3. 症例日誌、4. 症例報告書(作業療法実施計画)、5. 訪問時の状況などを以下の基準で総合的に判断し、成績が決められる。 A 100-90 点、安全配慮、対象者に必要な評価、リーズニング、実施計画作成、記録を十分に実習 B 89-80 点、達成した項目が 2/3 程度である C 79-70 点、達成した項目が 1/3 程度である D 69-60 点、達成した項目が 1 項目程度である F 59 点以下、行動が著しく劣り、リスク管理できない							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など		担当		
	5. 12. 4 (月) ～ 6. 2. 2 (金)	臨床実習 ・初期面接、評価、介入方針、問題点抽出、プログラム立案、実施	・県内外の医療機関の協力のもと臨床実習が行われる。	・病院図書館の活用可否を実習地に確認すること。 ・大学図書館も長期貸出を行うので確認すること。 ・実習中は実習指導者から指導を仰ぐことが望ましい ・訪問教員に相談する		・実習地では、臨床実習指導者が指導を行う。 ・全教員(訪問や電話、ZOOMなどで、実習経過の把握やアドバイスをを行う		

教科書 参 考 図 書	学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習のてびき」を読むこと。
履 修 上 の 注 意	・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導をうけること。 ・実習前後の準備・実技能力確認は、第3学年必修科目「総合実習Ⅱ特論」にてなされる。 ・本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場で担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	学生は、臨床実習協力病院の厚意で成り立っていることを理解し、社会人として「わきまえた行動」をとらねばならない。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 鈴木由美：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
総合実習Ⅲ		作業療法学科 (専門科目)	教 授 佐藤 寿晃 教 授 藤井 浩美 准教授 森 直樹 准教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 講 師 佐々木 学 助 教 井上 香 助 教 川勝 祐貴 助 教 高畑 未樹	必修	4	前期	8	非該当	否
授業概要		本実習で学生が行う具体的な内容は対象者への初回面接から評価、治療介入方針、問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案、実践を教授する。総合実習Ⅲは、身体機能系、高齢期、小児期、精神機能系、地域領域系などの領域から成り立ち、各学生は実習期間を通して1か所の実習地で一つまたは複数の領域の実習を行う。 最終学年での総合実習であることから、学生にはこれまでの臨床実習の経験をもとに、よりレベルの高い作業療法に関する専門的知識・技術および応用を教授し、保健・医療における高度な倫理観を身につけるよう指導する。							
一般目標		実習地において、対象者に対する評価から作業療法実施計画立案、リーズニングを含む一連の作業療法介入の概要を理解・実践の一部を経験する。							
到達目標		1) 作業療法実施計画を用いて症例の説明を受ける。 2) 対象者との面接・観察を通じて、またカルテ及び他部門から必要な情報を収集することができる。 3) 種々な対象者に対して基本的な検査・測定法を選択して、実施することができる。 4) 検査・測定結果を正しく記録し、そこから得られた情報を分析することができる。 5) 評価結果を整理・統合し、作業療法の実践に必要な対象者の問題や能力をまとめることができる。 6) 臨床過程（リーズニング）について理解・実践することができる。 7) 学内で習得した知識・実践能力を実習で活用できる。 8) 対象者や他職員との適切な関係を結ぶことができ、医療従事者としての作業療法士の役割を理解できる。 9) 臨床での倫理的配慮や日本作業療法士協会倫理綱領について理解できる。 10) 対象者の病状に応じて対応できる（患者の体調不良時の介入を変更・中止する場面を経験・遂行）。 11) 管理業務の一部を見学し、その重要性を理解できる。 12) 臨床実習指導者の診療記録などを参照し、そのレベルに達する努力を行っていくことができる。 13) カンファレンス（部門内、病棟内など）を見学し、多職種連携について理解できる。 14) 施設見学を行い、施設の機能について理解できる。 15) 1)～14)の到達目標を総合実習Ⅰ・Ⅱよりも高いレベルで実践できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		（臨床実習中の学生へのフィードバック） ・毎日のなかで、臨床実習指導者が実習生に対してフィードバックを行う ・臨床実習指導者が「臨床実習指導報告書」によって評価を行う ・実習中盤で実習指導者と学生によって中間評価が行われるので、誤解などがあれば適切に説明し、指導者と改善についてのアドバイスを得たりするなど、実習中の自己改善に役立ててほしい。 ・最終評価後に実習指導者と学生間で実習について意見交換を行い大学に提出する。 （実習終了後の最終評価） ・1. 臨床実習指導報告書、2. 実習日誌、3. 事例日誌、4. 事例レポート、5. 訪問時の状況などを以下の基準で総合的に判断し、成績が決められる。 - A 100-90 点、安全配慮、対象者に必要な評価、リーズニング、実施計画作成、記録を十分に実習 - B 89-80 点、 達成した項目が 2/3 程度 - C 79-70 点、 達成した項目が 1/3 程度 - D 69-60 点、 達成した項目が 1 項目 - F 59 以下、 行動が著しく劣り、リスク管理ができない							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習 方法	授業外学習など			担当		
	5. 5. 8（月） ～ 5. 6. 30（金）	臨床実習 ・初回面接、評価、介入 方針、問題点抽出、 プログラム立案、実 施	・県内外の医療機 関の協力のもと 臨床実習が行わ れる。	・病院図書館の活用可否を実 習地に確認すること。 ・大学図書館も長期貸出を行 うので確認すること。 ・実習中は実習指導者から指 導を仰ぐことが望ましい。 ・訪問教員に相談する			・実習地では、臨 床実習指導者が 指導を行う。 ・担当教員は訪 問や電話、ZOOM などで、実習経過 の把握やアドバ イスを行う。		

教科書 参 考 図 書	学科から配布される「臨床実習指導報告書」「実習の手引き」を読むこと。
履 修 上 の 注 意	・実習地での指導や生活については、臨床実習指導者会議で指導者から指導を受けること。 ・本科目は臨床実習指導者（実習施設に勤務する作業療法士）の指導の下、臨床現場での担当事例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案、実践を行う科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	学生は、臨床実習協力病院の厚意で成り立っていることを理解し、社会人として「わきまえた行動」をとらなければならない。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	学生個別には実習訪問教員が対応する。 科目についての意見・疑問点は担当者に問い合わせしてほしい。 科目担当者 千葉登：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp